

令和2年度 大雪山国立公園連絡協議会総会（書面）

議 事

- （1）令和元年度事業報告
- （2）令和元年度会計報告及び監査報告
- （3）大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築について
（大雪山国立公園連絡協議会の規約改正案について）
- （4）大雪山国立公園ビジョンの決定について
- （5）令和2年度における暫定予算等について
- （6）その他
 - 1）大雪山国立公園連絡協議会の幹事について
 - 2）管理運営計画作業部会及び協力金等作業部会の設置について

配布資料

資料 1 令和元年度事業報告

資料 2 令和元年度会計報告

資料 3 令和元年度監査報告

資料 4 大雪山国立公園連絡協議会規約【改正案】

資料 5 大雪山国立公園ビジョン【案】

資料 6 令和 2 年度における暫定予算について

資料 7 大雪山国立公園連絡協議会幹事について

資料 8 大雪山国立公園管理運営計画作業部会の設置について

資料 9 大雪山国立公園協力金等作業部会の設置について

参考資料 大雪山国立公園連絡協議会の今後のスケジュール

- 資料 1 令和元年度事業報告
- 資料 2 令和元年度会計報告
- 資料 3 令和元年度監査報告

補足説明

○令和元年5月10日に開催した従前の大雪山国立公園連絡協議会において承認された事業計画、予算が適切に実施、執行されているか審議するものです。

○そのため、従前の大雪山国立公園連絡協議会構成員（※）のみ回答をお願いします。

※回答が必要な団体

上川総合振興局、十勝総合振興局

富良野市、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、南富良野町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町

○中止とした、大雪山国立公園フォーラムの開催、大雪山国立公園連絡協議会改組及び大雪山国立公園ビジョン策定記念したシンポジウムに関する予算については、令和2年度に繰り越し、それぞれ令和2年度事業として、年度後半に実施する予定です。

令和元年度 大雪山国立公園連絡協議会 事業報告（案）

1. 大雪山国立公園フォーラムの開催（継続）

大雪山国立公園において、荒廃した登山道の補修が進み、大雪山の美しい景観を快適に探勝できる集客力の高い観光資源として再生できるよう登山道の管理を強化することを目指し、登山道の管理について学ぶ機会を設けることとした（令和2年3月11日予定）。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止とした。

2. 大雪山国立公園協働型管理運営体制構築事業

大雪山国立公園連絡協議会が総合型協議会として改組されて協働型管理運営体制が構築され、また、大雪山国立公園ビジョンが策定されたことを記念するシンポジウムを企画した（令和2年3月16日予定）。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止とした。

3. 携帯トイレ普及事業**（1）大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言北海道外発信事業**

大雪山国立公園において携帯トイレを普及させるためには、北海道外から来る登山者に対しても、大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言を発信し、周知する必要がある。そこで、近年、登山者が情報を集めている複数の登山関係のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を利用した普及啓発等について情報収集を行い、効果的な発信方法を検討した【別添1】。また、北海道外の登山者が利用するガイドや旅行会社へ携帯トイレ普及宣言チラシを送付し、周知を行った【別添2】。

（2）携帯トイレ普及キャンペーン

携帯トイレを普及させるためには、未だ利用する機会のない人を対象に、初めて利用する機会を与え、携帯トイレの使用法や快適性を理解してもらうことにより、抵抗感をなくさせる必要があると考えられる。

平成28年度（登山口での携帯トイレ持参の呼びかけ）、平成29年度（避難小屋等での携帯トイレ普及宣言の説明）の実施結果を踏まえ、今年度は①高原温泉地区、銀泉台地区、中岳温泉地区等、夏期や紅葉時期に混雑する場所において、仮設のテント式携帯トイレブースを設置し、登山者に実際に利用してもらい【別添3】、②携帯トイレブースがない場所での安心な利用法や既存のトイレグッズを組み合わせ価格を抑えた新たな携帯トイレを検討し、（1）の北海道外のガイドや旅行会社へ発信した。【別添4】。

これに必要なキャンペーンに必要な備品（携帯トイレ用便座、携帯ポンチョ等）を購入した。

この他、8月11日の山の日には、黒岳7合目において、携帯トイレの販売、使用方法等の啓発キャンペーンを実施した（株式会社りんゆう観光との共催）。

4. 大雪山国立公園登山マップの改訂及び印刷、登山者への普及

大雪山グレード（利用体験ランク）及び携帯トイレ普及宣言を掲載した登山マップについて、時点修正を行い、5000部印刷した。また、登山者に周知をするため、各登山口の案内標識にポストを設置し配置した【別添5】。

5. 大雪山国立公園登山情報の運用開始

大雪山国立公園の登山情報を一元的に集約して、登山者に伝えるウェブサイト「大雪山国立公園 登山情報」<<http://www.daisetsuzan.or.jp/trail-news/>>の運用を開始した。登山に必要な情報や役立つ情報を集約、整理して発信することで、登山者の利便性を向上させ、また、マナーの向上、安全確保（遭難防止を含む）を図る取組である【別添6】。

なお、令和元年度の運用状況を踏まえた改善等の対応を検討し、今後、登山道維持管理部会の取組として継続していく。

（令和元年度の状況）

○情報発信件数 大雪山国立公園全体で 94 件

6. ホームページの基本運営

大雪山国立公園連絡協議会のホームページのサーバーを維持し、基本情報等を引き続き発信するとともに、facebook、Youtube を活用し、国立公園及び周辺のリアルタイムな自然情報・イベント情報の発信を進めた。

（令和元年度の状況）

○大雪山国立公園連絡協議会 facebook 情報発信件数 102 件、いいね 12,113 件

7. 登山道の維持管理に係る技術講習会への協力

登山道の荒廃問題に対応し、適切な維持管理に貢献し、関係者間での登山道維持管理の技術向上を目指すことを目的に、山岳会やボランティア等山岳関係者を対象とした開催される登山道施設の補修・維持管理の講習会（登山道保全技術セミナーたまには山へ恩返し in 旭岳～裾合平～）に協力することとし、講師謝金、交通費、その他必要な費用を支払った【別添7】。

8. その他

○北海道アドベンチャートラベル推進協議会への参加

○大雪山携帯トイレ普及宣言に関係する各種事業（パートナーシップ事業、大雪山国立公園オリジナル携帯トイレの民間事業者による一括受注支援）

○後援名義の受付

- ・東川町、東川町教育委員会、公益財団法人北海道地域活動振興協会主催「新」旭岳ビジターセンターオープン記念特別企画 大雪山の価値を活かすフォーラム」（第1回令和元年6月15日、第2回令和元年8月11日）

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言北海道外発信事業

北海道外から来る登山者に対しても、大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言を発信し、周知するため、登山関係のSNS等への広告掲載やその他の発信方法について調査した。

SNS等への広告掲載について

ヤマケイオンライン

会員数 28万人を突破 (2018年11月時点)。
月間 843万PV (※) を記録 (2018年 8月)。

※PV (ページビュー) :
アクセス数を表す単位のひとつで、
ページが表示された総回数。

■ 広告掲載料

- * ディスプレイ広告 1ヶ月 130,000 円～
(最安: 通常シーズン (11 - 2月) レクタングルバナー)
- * メールマガジン広告 40,000 円 / 1回
(広告サイズ: 15行×40字のテキスト表現
※見出しは別途、1行35字以内)



・ヤマケイオンライン MEDIA SHEET2019
・ヤマケイオンライン 広告企画書2019 より引用

ヤマレコ

登録ユーザー数 約45万人 (2019年12月時点)。
月間 約1,800万PVを記録 (2019年 5月)。

■ 広告掲載料

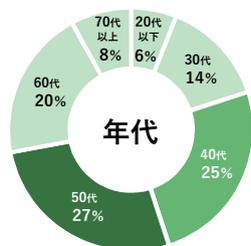
- * PCサイトバナー 1ヶ月 100,000 円～★
- * スマホサイトバナー 1ヶ月 120,000 円～★
★100万imp (表示回数) 単位での申し込み
- * メールマガジン広告 150,000 円 / 1回



・ヤマレコ 媒体資料 (2020年1月～3月) より引用

ユーザー層比較

ヤマケイオンライン



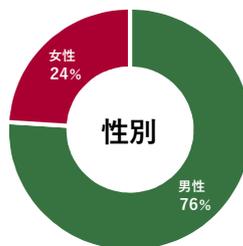
約28万人の登録会員データ
(2018年11月時点)

ヤマレコ



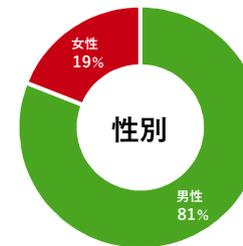
約45万人の登録者データ
(2019年12月時点)

ヤマケイオンライン



約28万人の登録会員データ
(2018年11月時点)

ヤマレコ



約45万人の登録者データ
(2019年12月時点)

- いずれも会員数・ユーザー数やアクセス数が多く、発信効果は高いと考えられる。
- 1ヶ月単位で広告料を支払う必要があり、長期的な発信は難しい。
- クリックしてもらえるような広告バナーを用意する必要がある。

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言北海道外発信事業

そのほかの発信方法について

ヤマレコ ブランドアカウント

【ヤマレコ ブランドアカウントのご紹介（2014年3月）より引用】

「ブランド公式」の情報を、興味を持つユーザーに直接発信できる「場」

■ ヤマレコのサイト内にブランドアカウント専用ページを作成

- * カバー画像、ロゴ画像などを掲載
- * 紹介メッセージ・フッターに自由記載可能

■ ドメインに続いて、専用のアドレスを利用可能

- * 例 <http://www.yamareco.com/daisetsuzan>

■ 基本的な機能は通常ユーザーと同様

- * 山行記録：登山道巡視結果など
- * イベント・山行計画：イベント告知など
- * 日記（お知らせ）：お知らせ場所

■ 「フォロー」したユーザーに最新の情報を通知

■ 投稿キャンペーンを作成可能

- * ヤマレコユーザーに対して、ブランドや特定のテーマに関する投稿を募集できる

ヤマレコのサイトヘッダ

ヤマレコの
サイトフッター

ブランドアカウントの価格

- | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|------------------------------|
| * ビジネスプラン 一般の企業・事業主向けプラン | 初期費用：5,000円（税抜） 月額費用：5,000円（税抜） | |
| * パブリックプラン 地方自治体などの公共サービス専用プラン | 初期費用：無料 月額費用：無料 | 大雪山国立公園連絡協議会 の場合はこちらに該当か？ |

○ 多数のユーザーに対し、大雪山国立公園独自の情報発信が可能。管理の労力が大きいことがネック。

高等学校山岳部・ワンダーフォーゲル部への働きかけ

初めて本格登山に触れる人が多い高校山岳部等に対して普及啓発することにより、携帯トイレを「山の常識」にできないか。

取組例

- * 独立行政法人日本スポーツ振興センター「国立登山研修所」が発行する高校山岳部用教材について、携帯トイレに関する記述の提案。
- * パワーポイント資料や印刷資料として利用できるテキストを作成し、高校山岳部等における講習用教材として、大雪山国立公園連絡協議会HPに掲載するとともに、全国の山岳部等のある高校に案内送付。

高校山岳部 生徒用ハンドブック
(国立登山研究所HPより)

○ 調整に大きな労力を必要とするが、長期的に見れば、携帯トイレ普及の大きな効果が期待できる。

携帯トイレ普及キャンペーン (携帯トイレテントブースの設置・登山口キャンペーン)

高原温泉（令和元年9月20日～29日）



○実施結果

携帯トイレテントブースは緑沼より大学沼方面へ100m進んだ登山道脇の地点に設置。設置期間は9月20日～29日までの10日間。期間中の利用者数は*80名程度であった。

*テント内に設置したカウンターによる数値

銀泉台赤岳（令和元年9月15日～23日）



○実施結果

携帯トイレテントブースの設置は9月14日～23日までを予定していたが、9月20日の悪天候で携帯トイレテントブースが倒壊したため、それ以降の設置は中止とした。

なお、9月14日～20日までの携帯トイレテントブースの利用者数は*20名程度であった。

※今年度は、赤岳山頂付近に携帯トイレテントブースを設置したが、悪天候時強風を受けやすい環境下であったことから、来年度は山頂付近を避け、倒壊するリスクが低い地点に設置する予定である。 *テント内に設置したカウンターによる数値

中岳温泉（令和元年7月4日～16日）



○実施結果

海の日3連休を含む、7月4日～16日まで13日間、携帯トイレブースを設置し、ブースの利用者数は*9名程度であった。 *テント内に設置したカウンターによる数値

令和元年7月8日（月）朝日新聞24面に取り組みが記事掲載された。

※今年度は、海の日3連休の登山者をターゲットにしたが、来年度は裾合平のチングルマの群落が満開になる7月中旬～後半に設置期間を延ばすことと、9月紅葉シーズンの設置も検討する。

黒岳7合目（令和元年8月11日・山の日）



○大雪山国立公園連絡協議会+株式会社りんゆう観光共催

○実施結果

霧雨のため、登山者は170名程度と少なかった。

携帯トイレ普及宣言チラシ、パンフレット、ゴミ袋等110セット配布。

携帯トイレ販売3つ。

※携帯トイレを持参している利用者は多かった。携帯トイレを知らない、または、使ったことがない利用者向けに、認知を高めるキャンペーンは、ほぼ役割を終えたものと考えられる。

※今後は、携帯トイレを実際に使用してもらうことを含む実効的なキャンペーンに力を入れていく。

携帯トイレ普及キャンペーン (新しい携帯トイレの試み)

別添4-1

携帯トイレブースがない場所での安心な利用方法

携帯トイレブースがない場所で、安心して携帯トイレが使える使用方法を検討し、次の商品を購入した。

●レインポンチョ（アウトドアプロダクツ） 2,105円

重さが、105gで、コンパクト。
携帯トイレを使用する際、周りから見える心配が
軽減する。



●簡易トイレイス（WOEN） 3,480円

重さが、850gと軽量であるため、ガイド付き
の登山やグループ登山をするときに、共同装
備としてレインポンチョと一緒に使用すれば、
快適性が向上する。



既存のトイレグッズを組み合わせた新しい携帯トイレ

現在、携帯トイレは、トイレがないアウトドアの場面のみならず、防災グッズとして様々な商品が販売されている。登山用品として販売されている携帯トイレ以外にも、既存の商品を組み合わせ、登山時にも使用出来るような新しい携帯トイレの検討を行った。

●購入したグッズ（携帯トイレ10回分想定）



- ①…厚手ゴミ袋45ℓ 10枚入り（日本技研工業）
- ②…大人用紙おむつストレートタイプ 30枚入り（ハビナース） 450mlまで吸収可能
- ③…トイレ凝固剤 10個入り（サンコー）
- ④…防臭袋 Mサイズ 90枚入り（BOS）
- ⑤…ジップロック Lサイズ 30枚入り（化成ホームプロダクツ）

商品ごとに販売個数が異なるが、①～⑤を1つずつ使用。袋類は心配であれば2重で使用も可能。

●使用方法（携帯トイレ1回分）

別添4-2

(1) ①の袋に、②シートをセットし、用を足す。



シートには450mlまで吸水されます。
一般的な大人の尿量は一回150~200ml

(2) 用を足し終わった後、水分が漏れる心配があれば、凝固剤を入れる。



(3) 空気を抜き、袋の大きさが最小になるように①の袋の口をしぼる。



(4) ④の防臭袋に入れる。小さくしないと入らないので、注意。



(5) (4)の袋を⑤のジップロックにいれ、密閉する。



購入費用（携帯トイレ10回分） 3, 304円

一回あたりの費用

- ①厚手ゴミ袋45L 32.7円（10枚入り327円）
- ②大人用紙おむつ 28.6円（30枚入り858円）
- ③トイレ凝固剤 49.2円（10回分492円）
- ④防臭袋Mサイズ 12円（90枚入り1080円）
- ⑤ジップロックLサイズ 18.2円（30枚入り547円）

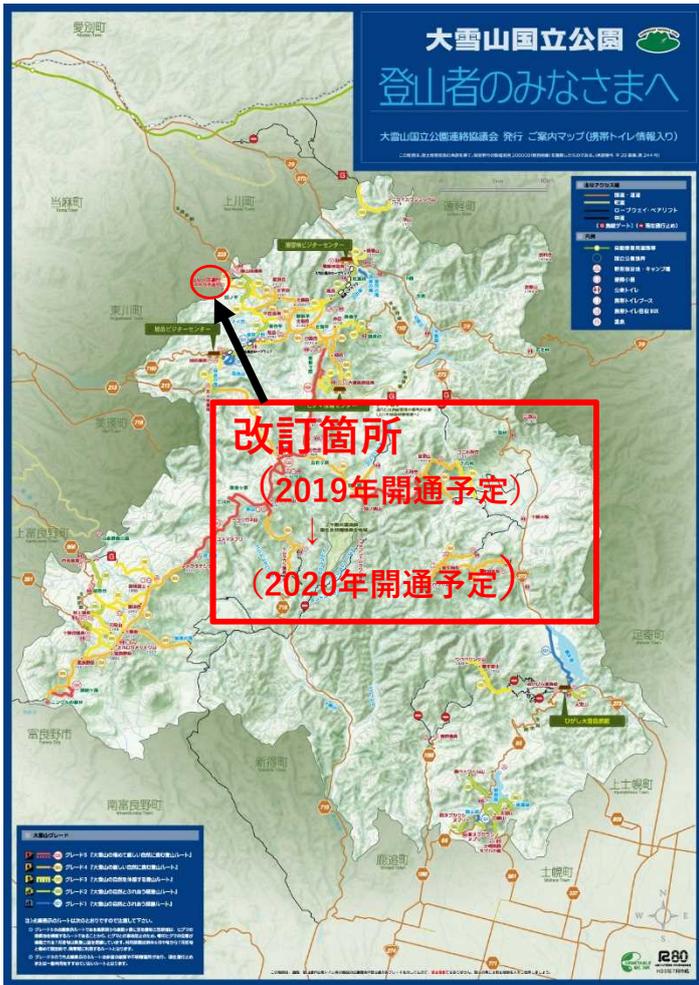
計 140.7円

- 使用した感想は、し尿や臭いの漏れはなく、ザックの中で、擦れたり、押し潰されたりして、袋が破れることはなかった。使用後もコンパクトになるため、1回のみでの使用として、日帰り登山などでは使用可能。
- 商品はばら売りされていないため、購入費用はまとめてとなるが、登山回数が多い人やガイドや登山グループなどで使用する場合は、1回あたりの費用は、登山用の携帯トイレより安くなる。
- 商品によっては、日用品であるため、各家庭にあるもので代用できる。
- 携帯トイレの1つとして、今後も使用回数を増やし、改良しつつ、色々な提案が行えるように検討する。

大雪山国立公園登山マップ改訂及び印刷、登山者への普及

登山者マップ表

登山者マップ裏



大雪山グレード（利用体験ランク）を明記した登山マップについては、松仙園登山道の開通を2019年から2020年へと改訂し、5,000部印刷した。

ポスト設置箇所

大雪山国立公園登山マップの普及のため、下記の13箇所の登山口案内看板へポストを設置し、登山者マップを配置した。

1. 黒岳
2. 銀泉台
3. 緑岳
4. 愛山溪温泉
5. 旭岳
6. 美瑛富士
7. 望岳台
8. 十勝岳温泉
9. 原始が原
10. トムラウシ温泉
11. トムラウシ短縮コース
12. 石狩岳
13. ユニ石狩岳



銀泉台登山口に設置した様子



緑岳登山口に設置した様子

大雪山国立公園における登山道の一元的情報発信

大雪山国立公園 登山情報 <http://www.daisetsuzan.or.jp/trail-news/> を開設

<概要>

- 期 間：令和元年7月11日～10月初旬
- 目 的：大雪山の登山に必要な情報、役立つ情報を集約、整理して発信。
- ねらい：登山者の利便性、マナーの向上、安全確保（遭難防止を含む）。

<取組の位置づけ>

- 大雪山国立公園連絡協議会 登山道維持管理部会として実施すべき取組を先行的に実施。

<運営体制>

- ①事務局（自然保護官事務所）が、協力団体のブログ等を参照してリンクを掲載
- ②事務局（自然保護官事務所）が収集した情報を掲載
- ③協力団体から事務局（自然保護官事務所）宛に、掲載依頼があった情報を掲載。

<「大雪山国立公園 登山情報」のイメージ>



※大雪山国立公園連絡協議会HPのトップページからリンク

※重要なお知らせはページトップに表示

※行きたい山の情報を地図から選ぶことができる。

最新の登山道・自然情報(最新5件)

登山地域 【10月2日現在】 大雪山温泉～沼ノ平の状況 - © 2019.10.02 Wed

黒岳地域 【10月1日】 黒岳トイレ脱獄 - © 2019.10.02 Wed

赤岳・緑岳 【9月29日現在】 銀泉台から赤岳の情報(紅葉終わり) - © 2019.09.30 Mon

旭岳 旭岳から天人峠への登山道について - © 2019.09.30 Mon

黒岳 【9月29日】 旭岳温泉(湧別温泉) 温泉探勝路の紅葉情報 - © 2019.09.30 Mon

登山エリアを指定して情報を見る

黒岳地域 黒岳・ニセイカウシュツペ

登山地域 大雪山・沼ノ平

赤岳・緑岳 赤岳・緑岳

旭岳 姿見の池・旭岳・菅合平

大雪山温泉 大雪山温泉

白岳・北岳 白雲・忠別・五色・化雲

十勝岳 十勝岳連峰

トムラウシ トムラウシ山

石狩・ニベ 石狩岳・ニベソツ山

然別湖 然別湖周辺

登山地図

大雪山グレート・トイレ情報入り登山地図 (PDF)

コースタイム入り登山地図 (PDF)

黒岳～旭岳詳細図 (PDF)

白雲岳～トムラウシ山詳細図 (PDF)

トムラウシ山～美瑛富士詳細図 (PDF)

十勝岳連峰詳細図 (PDF)

登山施設情報など

避難小屋・野営指定地一覧

大雪山・登山でちょっと役立つマップ(一般社団法人大雪山・山守隊)

※避難小屋、野営指定地、トイレ、水場、駐車場、コンビニ、宿など登山計画に役立つ情報はこちらにも

天気

- 山の天気(tenki.jp)
- 雨雲の動き(気象庁)
- SCW 天気予報 / 観測情報

携帯電話通話可能エリア

- docomo
- softbank
- au
- トムラウシ山 (新得警察署HP)

ロープウェイ

- 黒岳ロープウェイ
- 旭岳ロープウェイ

林道・道路状況

- 林道: 北海道森林管理局
- 道路: 北海道開発局

大雪山への交通アクセス～運行状況～



- 飛行機
 - 旭川空港
 - 帯広空港
- JR
 - JR北海道
- バス
 - 道北バス (層雲峡、銀泉台、美瑛)
 - 旭川電気軌道 (旭岳)
 - ふらのバス (旭川～美瑛～上富良野～富良野)
 - 上富良野町営バス (十勝岳温泉、白根荘)
 - 十勝バス (あかびら温泉郷)
 - 拓殖バス (然別湖、トムラウシ温泉)

登山者のみなさまへ 情報提供のお願い

- やまレポ 大雪山 (北海道大学、一般社団法人大雪山・山守隊)
- ※みなさまから登山道・避難小屋・野営指定地の状況に関する情報を集めています。

大雪山国立公園における一元的な情報発信のしくみ

詳細を見る

協力 (最新の登山道情報・自然情報提供元)

- 層雲峡ビジターセンター【黒岳・赤岳・緑岳】
- 旭岳ビジターセンター【旭岳・姿見】
- ひがし大雪山自然館【東大雪山地域】
- 大雪山自然学校【旭岳・姿見】
- NPO法人かむい【赤岳・黒岳】
- 一般社団法人大雪山・山守隊【大雪山全域】
- ひがし大雪山自然館【東大雪山地域】
- 大雪山自然学校【旭岳・姿見】
- NPO法人かむい【赤岳・黒岳】
- 一般社団法人大雪山・山守隊【大雪山全域】
- NPO法人ひがし大雪山自然ガイドセンター【東大雪山地域】
- 大雪山倶楽部【大雪山全域】
- 十勝岳温泉湯元凌雲閣【十勝岳温泉周辺】

※【 】は各団体が主に活動のフィールドとしている山域

運営

大雪山国立公園連絡協議会/大雪山国立公園登山道関係者による情報交換会
事務局: 環境省上川・東川・上土幌自然保護官事務所

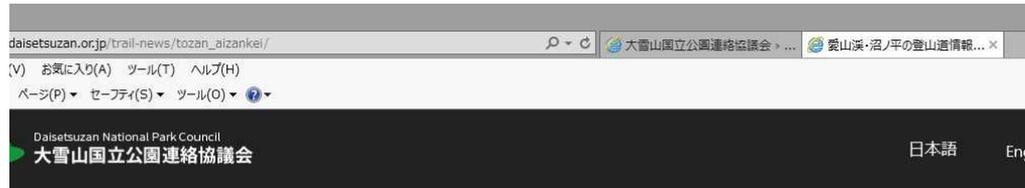
※新たに更新された最新の情報 5件を掲載

※行きたい山の情報を山の名前から選ぶことができる。

※登山計画を立てる際に役立つリンク集を掲載。

※情報の提供元(登山道維持管理部会参加(予定)団体)の紹介

<各エリアの情報掲載状況>



愛山溪・沼ノ平の登山道情報・自然情報

大雪山の大自然 大雪山を楽しもう 登山 管理運営 携帯トイレ普及宣言



- グレード5 『大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート』
- グレード4 『大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート』
- グレード3 『大雪山の自然を体感する登山ルート』
- グレード2 『大雪山の自然とふれあう軽登山ルート』
- グレード1 『大雪山の自然とふれあう探勝ルート』

コースの難易度：大雪山グレードをご確認ください。

- [大雪山グレード](#)
- [大雪山全体登山地図ダウンロード\(PDF形式 7MB\)](#)

最新の登山道情報



登山道情報

2019/10/02 水 17:48:33
 愛山溪温泉～沼ノ平
 【情報提供元】
 大雪山国立公園連絡協議会事務局

【10月2日現在】愛山溪温泉～沼ノ平の状況



紅葉は、愛山溪温泉（標高約1000m）～標高1300mあたりで進んでいます。



沼ノ平（標高1400～1450mあたり）以上の標高ですすでに紅葉は終わり、草紅葉が広がっています。

愛山溪温泉へ至る道道は、10月17日に閉まる予定です。

なお、9月19日～20日にかけて降った大量の雪は既に解けていますが、ふもとで雨が降れば、雪になる可能性は高いです。



登山道情報

2019/09/20 金 18:06:15
 沼ノ平
 【情報提供元】
 大雪山国立公園連絡協議会事務局

【9月19日現在】沼ノ平降雪情報

9月19日～20日にかけて、大雪山で降雪があり、標高1200～1300m以上では雪が多く残っている状況です。晴天が続くまでの間、登山道には雪が残ると思われます。



19日の沼ノ平の様子です。雪が15cmくらい木道に積もっています。



19日の三十三曲登山道の様子です。雪のため登山道からの水の排水が悪く、路面に多くの水がたまりぬかるんでいます。



イズミノ沢に新しい橋が設置されました

※各エリアごとに拡大地図、ルートごとの大雪山グレードを掲載

※各情報は、短い文章と写真で分かりやすく掲載。

※最新情報が上にくるようにする。

< 令和元年度の発信件数、閲覧件数 >

| 山域ごとの発信件数 | | | 閲覧数 Sessions |
|-----------|--------------|------|-----------------|
| 山域 | 主な山名等 | 発信件数 | |
| 黒岳地域 | 黒岳・ニセイカウシュツペ | 8 | 243 |
| 愛山溪地域 | 愛山溪・沼ノ平 | 11 | 722 |
| 赤岳・緑岳 | 赤岳・緑岳 | 13 | 700 |
| 旭岳 | 姿見の池・旭岳・裾合平 | 20 | 378 |
| 高原温泉 | 大雪高原温泉 | 1 | 173 |
| 白雲～化雲 | 白雲・忠別・五色・化雲 | 13 | 278 |
| 十勝岳 | 十勝岳連峰 | 17 | 188 |
| トムラウシ | トムラウシ山 | 5 | 115 |
| 石狩・ニペ | 石狩岳・ニペソツ山 | 5 | 93 |
| 然別湖周辺 | 然別湖周辺 | 1 | 8 |

※運用期間 90日間

ページトップ

3,678

※令和元年11月25日集計

登山道保全技術セミナー たまには山へ恩返しin旭岳～裾合平～

別添 7

- 日時：令和元年 8月31日(土)
- 場所：キトウシ森林研修センター
- 内容：北海道上川総合振興局及び一般社団法人大雪山・山守隊主催で日中に旭岳裾合平にて行われた「登山道補修イベント」に後援し、北海道山岳整備岡崎講師から登山道補修の振り返りや参加者からの感想等、室内講習を行った。

また、これまで裾合平等で行っているヤシネットによる植生保護について、今年度から北海道大学大学院農学研究院の佐々木氏が調査を行うことから、植生保護マットの施工箇所調査概要について説明を受けた。

- 参加者：41名
- 写真：



【集合】



【ヤシネットのよる法面保護班】



【丸太により段差処理が行われた登山道】



【室内講習の様子】

令和元年度会計報告

資料2

令和元年度 収支決算書(案)

1. 収入の部

(単位:円)

| 科目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|------------|------------|---------------|--|
| 繰越金 | 97,893 | 97,893 | 0 | |
| 負担金 | 1,260,000 | 1,260,000 | 0 | (内訳) 富良野市 72,000 上川町 243,000 東川町 144,000 上富良野町 99,000 美瑛町 126,000 南富良野町 63,000 士幌町 90,000 上士幌町 162,000 鹿追町 135,000 新得町 126,000 |
| 繰入金 | 0 | 0 | 0 | |
| 寄付金 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 6 | 7 | 1 | |
| 収入合計 | 1,357,899 | 1,357,900 | 1 | |

2. 支出の部

(単位:円)

| 科目 | 細目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|------------|------------|------------|---------------|--|
| 総務費 | 会議費 | 0 | 0 | 0 | |
| | 通信費 | 45,000 | 19,318 | ▲ 25,682 | 切手購入 |
| | 雑費 | 0 | 0 | 0 | |
| 小計 | | 45,000 | 19,318 | ▲ 25,682 | |
| 事業費 | 助成金 | 0 | 0 | 0 | |
| | 開催費 | 640,000 | 198,632 | ▲ 441,368 | (内訳) フォーラム(ポスター・チラシ) 128,304 携帯トイレ普及 70,328 |
| | 登山マップ制作・購入 | 150,000 | 149,996 | ▲ 4 | (内訳) 原稿改訂 4,860 印刷 144,936 登山口配布用ポスト用ビス 200 |
| | HP情報発信費 | 377,000 | 374,800 | ▲ 2,200 | (内訳) 基本運営 202,000 一元化情報発信 172,800 |
| | 講習会後援 | 60,000 | 41,790 | ▲ 18,210 | 登山道管理技術講習会への後援 登山道整備講習会(旭岳) 41,790 |
| | 送金手数料 | 15,000 | 5,872 | ▲ 9,128 | |
| | 予備費 | 70,899 | 0 | ▲ 70,899 | |
| | 小計 | | 1,312,899 | 771,090 | ▲ 541,809 |
| 支出合計 | | 1,357,899 | 790,408 | ▲ 567,491 | |

収支差額 ¥567,492 は次年度へ繰り越す

令和元年度 会計監査報告

令和元年度大雪山国立公園連絡協議会会計について、関係帳簿並びに預金通帳を監査したところ、いずれも適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。

令和2年4月27日

大雪山国立公園連絡協議会 監事

鹿追町長

喜井知己 

令和元年度 会計監査報告

令和元年度大雪山国立公園連絡協議会会計について、関係帳簿並びに預金通帳を監査したところ、いずれも適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。

令和2年 4月 17日

大雪山国立公園連絡協議会 監事

美瑛町長 角和浩幸 

資料 4 大雪山国立公園連絡協議会規約【改正案】

補足説明

○令和2年3月3日調整済み版からの変更点は次のとおり。

1. 事務局に関する規定について

(事務局)

第12条 本会の事務局を環境省~~上川自然保護官事務所~~大雪山国立公園管理事務所に置く。

2 (略)

3 事務局員は、~~上川、東川、上士幌自然保護官~~大雪山国立公園管理事務所職員がその任にあたる。

※組織名称変更に伴う修正。

2. 構成員について

別表>研究者

北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光学高等研究センター 木村
宏 特任教授

※役職名変更に伴う修正。

大雪山国立公園連絡協議会規約【改正案】

(名 称)

第 1 条 本会は、大雪山国立公園連絡協議会と称する。

(目 的)

第 2 条 本会は、大雪山国立公園の保全と利用の目標や将来像を示した大雪山国立公園ビジョンの実現を目指すため、会員相互の情報交換、連絡調整を図り、保全と適正な利用のための事業を実施することにより、大雪山国立公園の多様な関係者が協働した管理運営を行い、大雪山国立公園地域の健全な発展に資することを目的とする。

(事 業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 大雪山国立公園ビジョンに基づく方針、計画等の検討又は策定、大雪山国立公園ビジョンの達成状況の確認及び評価
- (2) 大雪山国立公園の管理運営に関する情報交換、連絡調整及び計画等の検討
- (3) 大雪山国立公園の保全及び適正な利用を推進するための事業
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(構 成)

第 4 条 本会は、別表に掲げる機関、団体等により構成する。

- 2 本会を構成する機関、団体等に幹事を置く。

(役 員)

第 5 条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副会長 2 名
- (3) 理 事 若干名
- (4) 監 事 2 名

(役員を選任及び任期)

第 6 条 役員は、協議会において選任し、任期は 2 年とし、再任を妨げない。

- 2 選任された役員が任期中に第 4 条第 1 項に規定する機関の長の職でなくな

ったときは、役員を退任したものとみなし、その補充については、その職の後任者が役員に選任されたものとみなす。

ただし、その任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の仕事)

第7条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
- 3 理事は、会務を分担し、会の運営にあたる。
- 4 監事は、協議会の会計を監査する。

(総会)

第8条 総会は、年1回開催するほか、会長の招集により必要に応じて開催する。

- 2 総会は、予算、決算、事業計画、規約の改正、その他必要な事項を協議する。

(幹事会)

第9条 総会の議事に関する予備的協議、その他連絡調整を行うため、会長の招集により必要に応じて幹事会を開催することができる。幹事会には各機関、団体等の幹事及び事務局が出席する。

(部会)

第10条 第3条の事業の一部を実施するため、常設の部会を設けることができる。

部会の組織及び運営に必要な事項は、本会において規約を定める。

- 2 部会として、表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会を設置する。

(作業部会)

第11条 第3条に掲げる事業に関して、一時的かつ専門的に調査、検討、協議を行う、作業部会を設置することができる。

- 2 作業部会に属する会員は、会長が指名する。
- 3 作業部会には、会長が会員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
- 4 作業部会の庶務は事務局が行い、その経過及び結果を総会に報告するものとする。
- 5 作業部会は、第1項の調査又は検討が終了したときは解散する。

(事務局)

第 12 条 本会の事務局を環境省大雪山国立公園管理事務所に置く。

2 事務局は、会の庶務及び会計事務を行う。

3 事務局員は、大雪山国立公園管理事務所職員がその任にあたる。

(会 計)

第 13 条 協議会の経費は、負担金、委託金、寄付金、その他の収入を持ってあてる。

2 協議会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

付 則 この規約は平成 5 年 12 月 7 日から施行する。

この規約は平成 12 年 5 月 15 日から施行する。

この規約は平成 13 年 5 月 9 日から施行する。

この規約は平成 18 年 5 月 11 日から施行する。

この規約は平成 20 年 5 月 13 日から施行する。

この規約は平成 23 年 5 月 12 日から施行する。

この規約は令和 2 年〇月〇日から施行する。

別表

| 分野 | 機関、団体等 |
|------------|------------------------|
| 関係行政機関 | 北海道地方環境事務所長 |
| | 北海道上川総合振興局長 |
| | 北海道十勝総合振興局長 |
| | 富良野市長 |
| | 上川町長 |
| | 東川町長 |
| | 美瑛町長 |
| | 上富良野町長 |
| | 南富良野町長 |
| | 士幌町長 |
| | 上士幌町長 |
| | 鹿追町長 |
| | 新得町長 |
| | 上川中部森林管理署長 |
| | 上川南部森林管理署長 |
| | 十勝西部森林管理署東大雪支署長 |
| | 北海道開発局開発監理部開発連携推進課長 |
| 北海道運輸局観光部長 | |
| 観光協会 | (一社) 層雲峡観光協会 |
| | (一社) ひがしかわ観光協会 |
| | (一社) 美瑛町観光協会 |
| | (一社) かみふらの十勝岳観光協会 |
| | (一社) ふらの観光協会 |
| | NPO 法人南富良野まちづくり観光協会 |
| 交通事業者 | (株) りんゆう観光 |
| | ワカサリゾート (株) |
| | 道北バス (株) |
| | 旭川電気軌道 (株) |
| | 十勝バス (株) |
| | 北海道拓殖バス (株) |
| 自然保護団体 | 大雪と石狩の自然を守る会 |
| | 十勝自然保護協会 |
| 研究者 | 北海道大学大学院環境科学研究院 渡邊悌二教授 |

| | |
|----------------|--|
| | 北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也准教授 |
| | 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院観光学高等研究センター 木村宏教授 |
| ビジターセンター運営協議会等 | 層雲峡地区自然ふれあい利用協議会 |
| | ひがし大雪自然館運営協議会 |
| | 東川町【再掲】 |

大雪山国立公園連絡協議会役員名簿
(案)

会 長 上川町長

副会長 東川町長

副会長 上士幌町長

理 事 北海道地方環境事務所長

監 事 美瑛町長

監 事 鹿追町長

大雪山国立公園連絡協議会

表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会 規約（案）

（趣旨）

第1条 本規約は、大雪山国立公園連絡協議会規約第10条第1項の規定に基づき、表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会の組織及び運営に必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 本部会は、大雪山国立公園内の登山道の荒廃等の課題及びその対策について関係者で協議し、もって登山道の適正な維持管理に資することを目的とする。

（活動内容）

第3条 本部会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）登山道の整備及び維持管理並びにそれに関連する登山道の利用や登山道周辺の自然環境等に関する情報交換、連絡調整
- （2）登山道の荒廃等の課題及びその対策に必要な事業
- （3）その他、前条の目的を達成するために必要な事業

（構成）

第4条 本部会は、別表に掲げる構成員及びオブザーバーをもって構成する。

（大雪山国立公園連絡協議会への出席）

第5条 本部会の構成員は、大雪山国立公園連絡協議会に出席し、第3条に規定する事業の報告や意見を述べる。

- 2 前項の出席者は2名以内とし、部会において選任する。任期は1年とする。

（運営）

第6条 本部会は、事務局が招集し、事務局員が議事進行を務める。

- 2 本部会を年2回程度開催し、必要に応じて随時、臨時部会を開催する。

（事務局）

第7条 表大雪地域登山道維持管理部会の事務局を上川自然保護官事務所に、東大雪地域登山道維持管理部会の事務局を上士幌自然保護官事務所に置く。

- 2 事務局は、会の庶務を行う。
- 3 表大雪地域登山道維持管理部会の事務局員は上川自然保護官及び東川自然保護官が、東大雪地域登山道維持管理部会の事務局員は上士幌自然保護官がその任にあたる。ただし、事務局の業務を請負することを妨げない。

4 事務局員は、大雪山国立公園連絡協議会に出席し、第5条第1項に基づき出席する者を補佐する。

(会 計)

第8条 本部会の運営及び事業の実施に必要な経費は、大雪山国立公園連絡協議会の経費を充てる。

(その他)

第9条 本部会は、大雪山国立公園内の登山道の適正な維持管理のために、関係するその他の協議会との連携及び協力を図る。

付 則 この規約は令和〇年〇月〇日から施行する。

表大雪地域登山道維持管理部会

構成員

| 分野 | 名称 |
|-------------------------|--|
| 関係行政機関 | 北海道地方環境事務所 上川中部森林管理署 上川南部森林管理署 北海道上川総合振興局 富良野市 上川町 東川町 美瑛町 上富良野町 南富良野町 |
| 維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体 | NPO 法人アース・ウィンド NPO 法人かむい NPO 法人大雪山自然学校 勤労者山岳連盟（道央地区） 合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 山樂舎 BEAR 層雲峡ビジターセンター 大雪山倶楽部 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 TREE LIFE 富良野山岳会 北海道山岳ガイド協会（表大雪地区） |
| 自然保護関係団体 | 大雪と石狩の自然を守る会 山のトイレを考える会 |
| 調査・研究関係 | 北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺悌二教授 北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也准教授 |

オブザーバー

| 分野 | 名称 |
|-------------------------|---|
| 維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体 | 旭川勤労者山岳会 ガイドオフィス風 株式会社りんゆう観光 上川山岳会 上富良野十勝岳山岳会 |

| | |
|----------|--|
| | 黒松内銀竜草の会 公益社団法人日本山岳会北海道支部 美瑛山岳会 ワカサリゾート株式会社 |
| 自然保護関係団体 | 北海道高山植物保護ネット |
| 調査・研究関係 | 山岳レクリエーション管理研究会 |

※関係行政機関以外は、分野ごとに 50 音順

東大雪地域登山道維持管理部会

構成員

| 分野 | 名称 |
|-------------------------|---|
| 関係行政機関 | 北海道地方環境事務所 十勝西部森林管理署東大雪支署 北海道十勝総合振興局 士幌町 上士幌町 鹿追町 新得町 |
| 維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体 | NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター 合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 山樂舎 BEAR 新得山岳会 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 十勝山岳連盟 |
| 自然保護関係団体 | |
| 調査・研究関係 | |

オブザーバー

| 分野 | 名称 |
|-------------------------|--|
| 維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体 | 株式会社北海道ネイチャーセンター 公益社団法人日本山岳会北海道支部 しほろ自然環境に親しむ会 北海道山岳ガイド協会（東大雪地区） ボレアルフォレスト |
| 自然保護関係団体 | |
| 調査・研究関係 | |

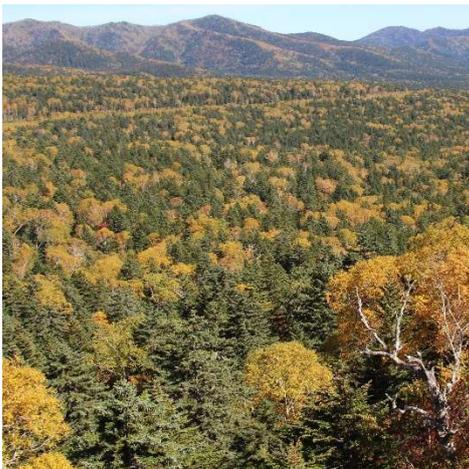
※関係行政機関以外は、分野ごとに 50 音順



大雪山国立公園ビジョン

まもり、活かし、つなげよう
みんなで作る、
世界を魅了する大雪山国立公園

令和2年 月 大雪山国立公園連絡協議会

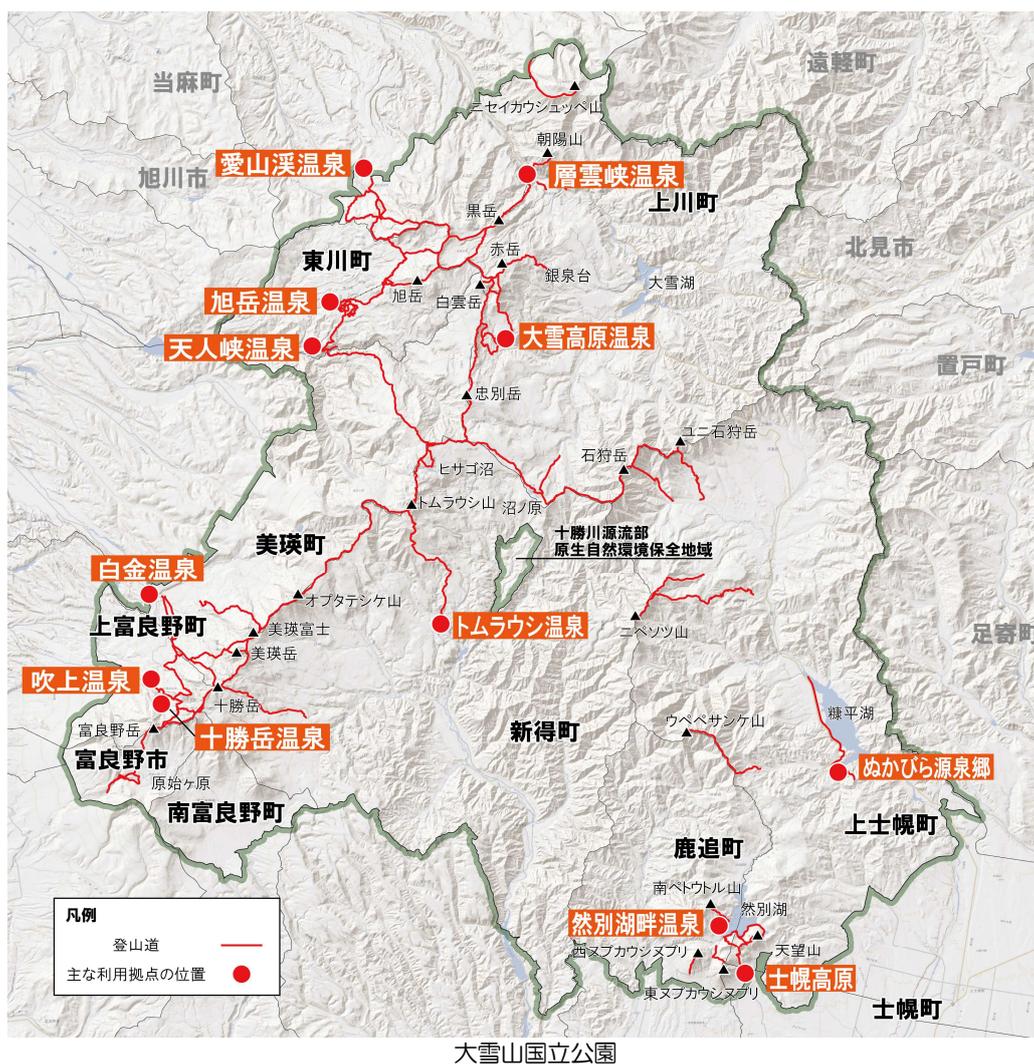


はじめに

「大雪山国立公園ビジョン～まもり、活かし、つなげよう みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園～」は、大雪山国立公園に影響を与える近年の自然的・社会的環境の変化に対応するとともに、課題を解決し、「大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園」、「魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園」、「つながっていく国立公園」を将来の目指す姿として実現するため、大雪山国立公園連絡協議会が策定したものです。

大雪山国立公園連絡協議会（私たち）は、このビジョンを協議会構成員の各関係者はもとより、利用者（観光客、登山者など）、大雪山国立公園に関心を持ち関わろうとするすべての人々、大雪山国立公園の周辺地域に住むみなさまと共有します。

そして、このビジョンをこれらすべての方々（みんな）の共通目標として位置づけ、一緒になり、それぞれができることを持ちより、連携、協力して、このビジョンを実現していきます。



1. 大雪山国立公園の価値と歩み

(1) 大雪山国立公園の価値

大雪山国立公園（本ビジョンでは十勝川源流部原生自然環境保全地域も含む。）の広大で原生的な山岳景観は、日本でここだけにしかない、北海道、そして大雪山国立公園関係10市町が持つ優れた資源です。

広大な山岳景観は、中生代に海底に堆積¹した日高累層群が隆起し、その上に、新生代（主に第四紀）の火山活動により溶岩や火砕流が噴出して広大な高地が形成された²ことによるものです。この高地は表大雪地域、東大雪地域に共通する基盤ですが、表大雪地域では火山噴出物が厚く堆積したため広大で平坦な高山帯が形成され、東大雪地域では多くの樹海が形成されました。

また、山岳景観が広大であるため、その中に含まれる景観要素の多様性も際立っています。現在も噴煙を上げる旭岳や十勝岳などの活火山、十勝三股をはじめとする大きなカルデラのほか、大雪山の名にふさわしいたくさんの雪や雪氷現象、周氷河地形などが見られます。エゾオヤマノエンドウ、ホソバウルップソウなどの大雪山の固有種を含む高山植物のお花畑のほか、高層湿原も各地に見られます。ヒグマやナキウサギなどの哺乳類、ウスバキチョウ、アサヒヒョウモンなどの高山蝶をはじめとする昆虫など多種多様な動物が生息しています。森林は、針広混交林、針葉樹林帯、ダケカンバ帯、ハイマツ帯が垂直に分布し、各地の利用拠点では、峡谷と柱状節理、湖、滝、温泉が見られます。



十勝岳の火山活動



ホソバウルップソウ



ヒグマ



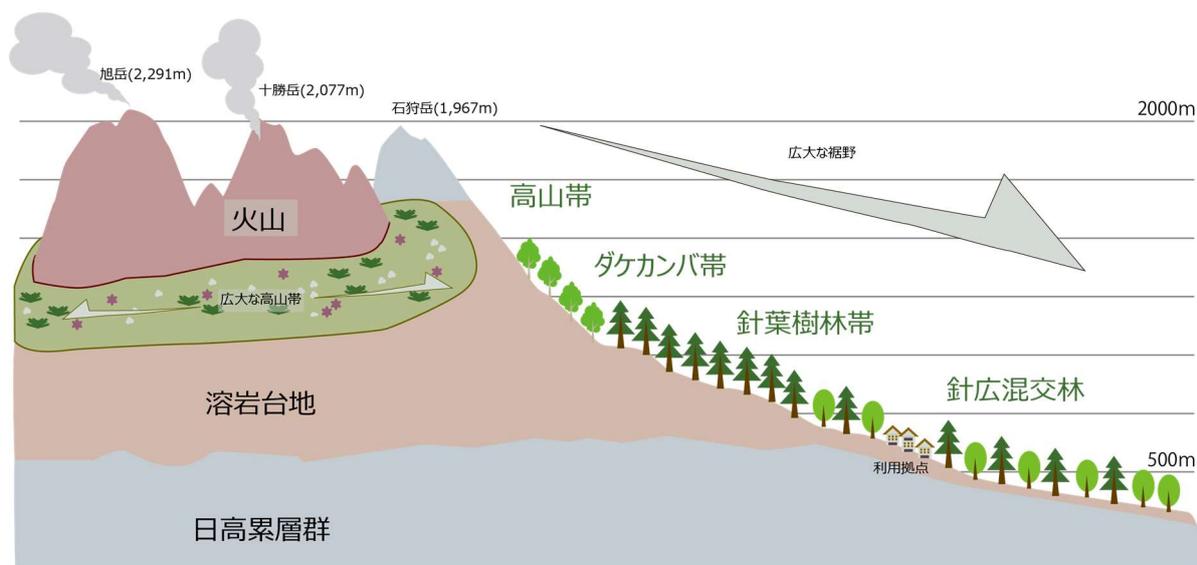
ナキウサギ



アサヒヒョウモン

1 これらの堆積はおよそ1億4000万年前（日本シームレス地質図 <https://gbank.gsj.jp/seamless/download/downloadIndex.html>）。

2 これらの堆積はおよそ500万年～100万年前（小崎・野上ほか編 2003「日本の地形2 北海道」東京大学出版会 p118,129）。



大雪山国立公園の地史的成り立ち

さらに、これらの景観要素には国際的な観点からも特徴あるものがあります。例えば、大雪山は周氷河地形が大規模に残された場所の南限であると考えられ、また、カムチャッカ半島、東シベリア、千島列島といった各地に成立する北方林が大雪山では同所的に見られません³。

大雪山国立公園の山麓部には、多くの温泉が湧いています。それぞれの開湯の歴史を背景として独特な温泉地の景観が形成され、国立公園の利用拠点となっています。温泉に入ることによって、大雪山国立公園の火山活動を感じながら、保養を楽しむことができます。また、高山帯には登山道が整備されており、風景探勝や登山を通じてこれらの広大で原始的な山岳景観を体験できます。

3 沖津進 2002『北方植生の生態学』古今書院

このように、大雪山国立公園は生物多様性、生態系、地形・地質、利用のいずれについても優れた価値を持ち、さらにこれら以外の多様な観点からも高い評価を得ています。大雪山国立公園は、学術上の貴重性の観点から国の特別天然記念物に指定され、森林保護上の重要性の観点から森林生態系保護地域が設定されています。また、地形・地質の観点からは、とちかち鹿追ジオパークが日本ジオパークに認定されたほか⁴、文化の観点からは、大雪山を含むストーリーが「カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～」として日本遺産⁵に認定されました。



とちかち鹿追ジオパーク（然別湖）



日本遺産認定のロゴマーク



カムイと共に生きる
上川アイヌのロゴマーク



とちかち鹿追ジオパーク（苔の森）



日本遺産認定のポスター



とちかち鹿追ジオパーク

とちかち鹿追ジオパークのロゴマーク

4 日本ジオパーク委員会により 2013（平成 25）年 12 月認定。

5 大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミタラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきたことを含むストーリーで、文化庁により 2018（平成 30）年 5 月認定。

2003（平成 15）年には世界自然遺産の候補地の選定の検討対象となり、顕著な価値があるとの意見（環境省・林野庁による平成 15 年世界自然遺産候補地に関する検討会）もあったほか、大雪山国立公園を含む各地で様々な枠組みへの認定、登録に向けた取組が進められています。

これらの動きそのものも、国立公園の優れた価値のあらわれであると言えます。

大雪山コラム



大雪山について

大雪山という名称が文献上最初に登場したのは、1903（明治 36）年に松原岩五郎著「日本名勝地誌 第九編 北海道之部」（博品館発行）においてです。その後、1918（大正 7 年）に旭川中学校教諭の小泉秀雄が「北海道中央高地の地学的研究並植物分布の研究」を発表し、表大雪地域の北部を大雪山と呼称してその最高峰を旭岳とする整理を行いました。この考え方が現在でも一定の影響を持つのは確かです。

しかし、本ビジョン 1（1）「大雪山国立公園の価値」において示したとおり大雪山国立公園の地史的成り立ちや、1934（昭和 9）年に大雪山国立公園が現在の区域で指定されて 85 年以上が経過して大雪山の名称が公園区域全体で浸透したことを踏まえ、本ビジョンでは「大雪山」という場合、大雪山国立公園全体と捉えることとします。

なお、表大雪地域は、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町の地域、東大雪地域は、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町の地域を指すこととします。

(2) 大雪山国立公園の歩み

大雪山国立公園は1934（昭和9）年に指定されましたが、大雪山が有する価値を発掘して活かす取組は、それ以前から行われてきました。

国立公園制度ができる遥か以前の1911（明治44）年、当時の愛別村長、太田龍太郎が現在の層雲峡を「霊山碧水」と名付けて国立公園として経営すべきとの建白書（意見書）（石狩川上流霊域保護国立公園経営の件）を逓信大臣に送付したのが最も古い記録です⁶。

また、1924（大正13）年には実業家や研究者（小泉秀雄など。大雪山コラムも参照）が中心となり大雪山調査会が結成され、学術研究が大きく進展しました。その成果をもとに利用者向けの登山案内書やパンフレットが作成され、高山植物保護地域の設定運動等が行われました。

大雪山国立公園は、日本の中で先駆けて、自然資源の価値を科学的に明らかにし、保全を図ってきた特色ある地域であることを改めて認識する必要があります。

第二次世界大戦後60年くらいは、戦後の復興、高度経済成長、その後のバブル経済等を背景として、大雪山国立公園内においても、観光をはじめとする産業と自然保護との調整が大きな課題となった時代でした。

大雪山の裾野はエゾマツやアカエゾマツを中心とする森林で覆われていました⁷が、1954（昭和29）年の洞爺丸台風は大雪山に甚大な被害をもたらしました。これを機に風倒木の搬出、処理等によって林業が急速に隆盛し、風倒地以外での伐採も進みました。こうしたことによって、森林の蓄積量は半分以下となり、またトドマツが多くなるなどかつての森林とは異なる林相に変化しました⁸。また、硫黄等の鉱物資源の採掘、農業、生活用水等の確保のためのダム建設、観光道路の建設、電源開発（設備の建設のほか資源調査を含む）等の計画が進みました。



大雪山調査会が作成した書籍やパンフレット

6 笹川良江編・太田龍太郎著 2004「大雪山国立公園」の生みの親 太田龍太郎の生涯—復刊「霊山碧水」—北海道出版企画センター

7 北海道 1975「大雪山自然生態系総合調査 中間報告（第1報）—十勝川流域—」p34、同 1976「大雪山自然生態系総合調査 中間報告（第2報）—石狩川流域—」p180

8 石狩川源流域においては、風倒跡に成立した森林は、風倒前の優占種であったエゾマツやアカエゾマツに代わり、トドマツが優占する林分やカンバ類やヤナギ類が優占する林分となっており、また、材積も、風倒被害を受けていない原生保護林の材積（620 m³/ha）と比べて20～55%となっているという（北海道森林管理局 2015「石狩川源流森林総合調査（第4次）報告書」p7-8,27-28）。被害率が石狩川源流域より低かった十勝川源流域においても、十勝川源流部原生自然環境保全地域の林分が400 m³/haの材積を有しているのに対し、その周辺の林分の材積は200 m³/ha未滿となっているという（長池卓男・久保田康裕 2000「自然保護区管理と森林施業—大雪山国立公園を事例に—」遺伝 54 巻 9 号, p59）。

一方で、自然保護運動の盛り上がりにより大雪山国立公園の価値に及ぼす影響が著しい建設計画は中止されました。

21世紀に入り持続可能な社会の構築が社会全体の課題となりました。

2006(平成18)年には全国の国立公園に先駆けて、原生的な雰囲気の有無など、自然環境に合わせて登山体験を享受できるような登山道の整備や維持管理を目指した、登山道の管理水準(現在の「大雪山グレード」)が定められました⁹。

2007(平成19)年に策定した大雪山国立公園管理計画では、重要な自然環境を厳正に保全しつつ体験するために必要な利用空間を確保して自然とのふれあいを増進するといった、保護と利用をバランスよく両立させるウィズユースの考え方が打ち出されました。

また、この頃から表大雪地域の一部を中心として携帯トイレを普及する取組が始まりました。この動きは、2018(平成30)年には大雪山国立公園連絡協議会と道内の山岳関係18団体が共同で「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を発出することに結実し、官民が連携して大雪山国立公園全体で携帯トイレを普及する方針が対外的に発信されました。「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」により、これまで大きな問題とされていたトムラウシ沼野営指定地や美瑛富士避難小屋周辺に携帯トイレブースの増設や新規設置が行われたほか、関係団体が協力して行う維持管理や普及啓発に向けた動きが進んでいます。

本格的な少子高齢化、人口減少社会を迎える中で、自然環境保全をはじめとする環境問題は、経済や社会の課題と相互に密接に関連し、複雑化しています。大雪山国立公園では2007(平成19)年に策定された管理計画の考え方を継承しつつも、今後の管理運営においては、地域社会の課題解決に国立公園が寄与するといった発想のもとで関係者が連携していくことも重要となっています。



観光道路の計画のための調査について報じる新聞記事
(北海道新聞 昭和34年7月30日掲載)

これらの計画は中止された。



大雪山グレード

大雪山グレードは、登山道を自然条件や管理状況などを基に5段階にランク付けして登山道の管理水準を示し、それぞれの特徴に応じた維持管理や適正な利用を推進するものです。

維持管理にあたっては、原始的な自然が色濃く残る山岳地域の登山道では自然の雰囲気を保つことを最優先とする一方、利用拠点からのアクセスがよい山麓地域に近い登山道では快適に歩くことができるような維持管理水準としています。

また、利用者に対しては、原始的な雰囲気が残る登山道では高度な登山技術を要し難易度が高いことを示す一方、利用拠点からのアクセスがよい山麓地域に近い登山道では難易度は低く多様な利用者が利用できることを示しています。このように、利用者に対して自己責任で行動判断を行う時の目安（区間における行動判断の要求度や難易度）を示し、力量に応じた登山を推奨するものです。

北海道地方環境事務所で2006（平成18）年に策定され、2015（平成27）年6月に改定されています。

- | | | |
|--|----------|----------------------|
| | 大雪山グレード1 | 大雪山の自然とふれあう探勝ルート |
| | 大雪山グレード2 | 大雪山の自然とふれあう軽登山ルート |
| | 大雪山グレード3 | 大雪山の自然を体感する登山ルート |
| | 大雪山グレード4 | 大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート |
| | 大雪山グレード5 | 大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート |



大雪山グレードが示された地図の例

2. 大雪山国立公園の現状と課題

(1) 大雪山国立公園に影響を与える自然的・社会的環境の変化

1) 気候変動

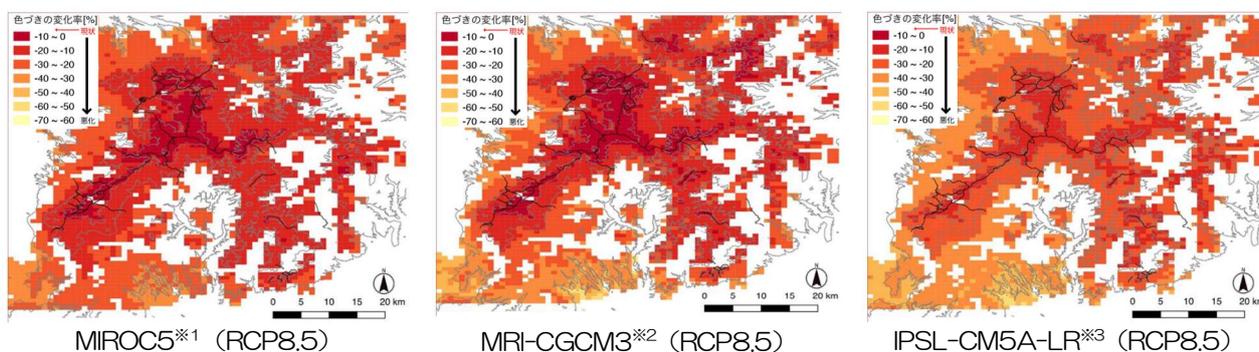
人間活動の拡大に伴う温室効果ガスの排出により、気候変動が生じ、気温が上昇し、また、極端な降水や熱波が頻繁に発生する可能性も非常に高くなっています。大雪山国立公園では、高山植生の生育適地の減少、紅葉の色づきの低下、山岳地域での降水量の増加、ササや亜高山帯森林植生の拡大が予測されています。



ササの広がり（五色ヶ原）

これにより、紅葉の色づきの低下による観光への影響や、降水量の増加による登山道の侵食、荒廃の深刻化が懸念されます¹⁰。さらに、近年、大雪山国立公園内でも局地的な集中豪雨により、登山口へアクセスする道が崩壊する被害も生じています。

また、暖冬の影響によりエゾシカの分布が拡大し、大雪山国立公園の高山植生についても、採食や踏圧による植生や景観の変化が見られています。



今後地球温暖化対策を取らなかった場合（RCP8.5の場合）、2096～2100年に紅葉の色づきがどのように低下するか3つの気候モデルで示したものの、色が薄いほど紅葉の色づきが悪くなることを示しており、標高が低い地域で特に色づきが悪くなる傾向が示された。

※1：東京大学、国立環境研究所などが開発した気候モデル ※2：気象庁が開発した気候モデル ※3：IPSLという海外の研究機関のコンソーシアムが開発した気候モデル

大雪山における紅葉の将来予測結果一覧

| | 色づき | 開始日 | 最盛日 | 終了日 |
|------------------|---------------------------|-----------------------|------|-------|
| 高標高域 (>1500m) | RCP8.5/2100年に 10～20%悪化 | RCP2.6/2050年 から早まる | 変化なし | 変化なし |
| 低標高域 (<1500m) | RCP8.5/2100年に 大きく悪化 | RCP2.6/2050年 から早まる | 変化なし | ばらつき大 |

10 国立研究開発法人国立環境研究所「平成29年度生物多様性分野における気候変動への適応策検討業務報告書」（平成30年3月）

2) 人口減少と高齢化、ライフスタイルの変化及び価値観の多様化

大雪山国立公園関係市町の人口は減少傾向であり、人手不足が生じています¹¹。国立公園に関係するNPOや地域活動団体、観光、交通等の業界でも同様で、特に施設の維持管理を行う関連業界（例えば、建築、土木、電気等）で担い手不足が深刻です。

ライフスタイルの変化と価値観の多様化はレジャーの多様化ももたらしました。余暇活動の参加人口のうち、国内観光旅行は2011（平成23）年以降連続して1位であるものの、その数は減少しています。一方、余暇活動の内容は多様になっています¹²。旅行形態についても、団体旅行から個人旅行へ変化し、個人の指向や好みに合ったスタイルに変化しました。

温泉地に団体で宿泊して景勝地を探勝する旅行形態を前提としてサービスを提供する宿泊施設や事業者は苦戦する一方、その場所でしか見られない特色のある資源を発掘して活用した特定の地域がSNS等で話題になり、その地域の旅行者数だけが伸びるという二極化の状況も生じています。



SNSで話題となった青い池（美瑛町）

ライフスタイルの変化や価値観の多様化の背景には、近年の情報通信技術の急速な進展もあって考えられます。利用者は旅行や登山に必要な情報の多くをスマートフォンから得るようになりつつあります。また、ドローンなどの無人小型航空機（UAV、以下「ドローン等」という。）の小型化により、調査研究や趣味で活用できる機会が増える一方、利用者間でトラブルも生じています。このように、近年の様々な情報通信技術の進展により、大雪山国立公園に関する情報の入手方法や利用方法も変化しています。

11 2014（平成26）年に有効求人倍率が1倍を超えた。

12 公益財団法人日本生産性本部 レジャー白書概要発表資料2009～2018

3) 外国人利用者の増加

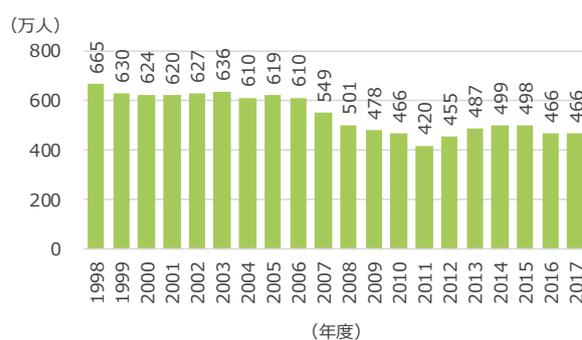
政府による観光立国の実現に向けた取組を背景に、我が国の外国人観光客数は急速に増加しています。また、国立公園においては、訪日外国人利用者数を 2020（令和2）年までに 1,000 万人にすることを目標とした、「国立公園満喫プロジェクト」が 2016（平成 28）年に立ち上がり、官民連携でのインバウンド対応の取組が今まさに進められています。

北海道を訪れる外国人の数はこれまで年間 60～70 万人で推移してきましたが、2013（平成 25）年に 100 万人を超え、現在 300 万人に到達する勢いです¹³。統計情報がある層雲峡地区においても、ここ数年で、外国人宿泊者数は年間 20 万人を越え、層雲峡ビジターセンターの利用者についても外国人が 3 千人程度から 6 千～7 千人に増加しました。山岳地域、山麓地域を問わず、数多くの外国人旅行者が大雪山国立公園を訪れるようになったといえます。山岳地域では冬期も含めた外国人利用者が増加する一方、遭難事故の増加が問題となっています。

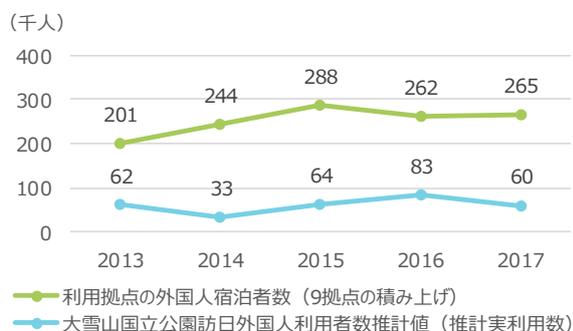
政府は観光を我が国の基幹産業に成長させて観光先進国を目指す¹⁴等、観光政策を重視することとしており、今後もさらなる訪日外国人の増加が予想されます。



北海道を訪れる外国人観光客数の推移



大雪山国立公園の利用者数の推移



大雪山国立公園における外国人利用者数の推移

13 北海道経済部観光局資料

14 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議「明日の日本を支える観光ビジョンー 世界が訪れたい日本へー」（2016（平成 28）年 3 月）

(2) 大雪山国立公園の課題

気候変動、人口減少と高齢化、ライフスタイルの変化、価値観の多様化、技術の進展、外国人利用者の増加といった自然的・社会的変化に対応し、次の課題を解決していく必要があります。

1) 山岳地域の荒廃

①保全上の課題

i) 植生等の変化

大雪山国立公園では、気候変動を背景とした気温や積雪の変化、エゾシカの分布拡大、ササの拡大などにより、高山植物のお花畑が減少し、生物多様性への影響が懸念されています。

また、近年、外来生物法に基づく特定外来生物であるセイヨウオオマルハナバチが大雪山国立公園の高山帯で確認されることもあります。仮に定着してしまえば、在来のマルハナバチが駆逐され、高山植物の生育に大きな影響が出ること¹⁵が懸念されています。また、大雪山国立公園には延長約300kmの登山道があります。登山者の踏圧や近年の局地的な集中豪雨などにより荒廃が進むと、登山道が拡幅したり、登山道外へ土砂が流出したりします。これにより、登山道沿いの高山植生が減少・衰退しています。登山者がし尿を排するために登山道から外れて歩くことでも、高山植生が衰退しています。

ii) 地形や土壌の侵食

登山者の踏圧や集中豪雨などにより荒廃が進み、登山道が拡幅したり、登山道外に土砂が流出したりすることにより、被植階状土をはじめとする周氷河地形が消失した場所も見受けられ、地形や土壌の侵食も課題です。

15 巣の乗っ取り等の直接的な駆逐以外にも、在来のマルハナバチの繁殖の阻害、盗蜜による高山植物の種子生産や繁殖の阻害の可能性がある（北海道地方環境事務所「大雪山高山帯におけるセイヨウオオマルハナバチ防除の考え方」（平成30年2月））。

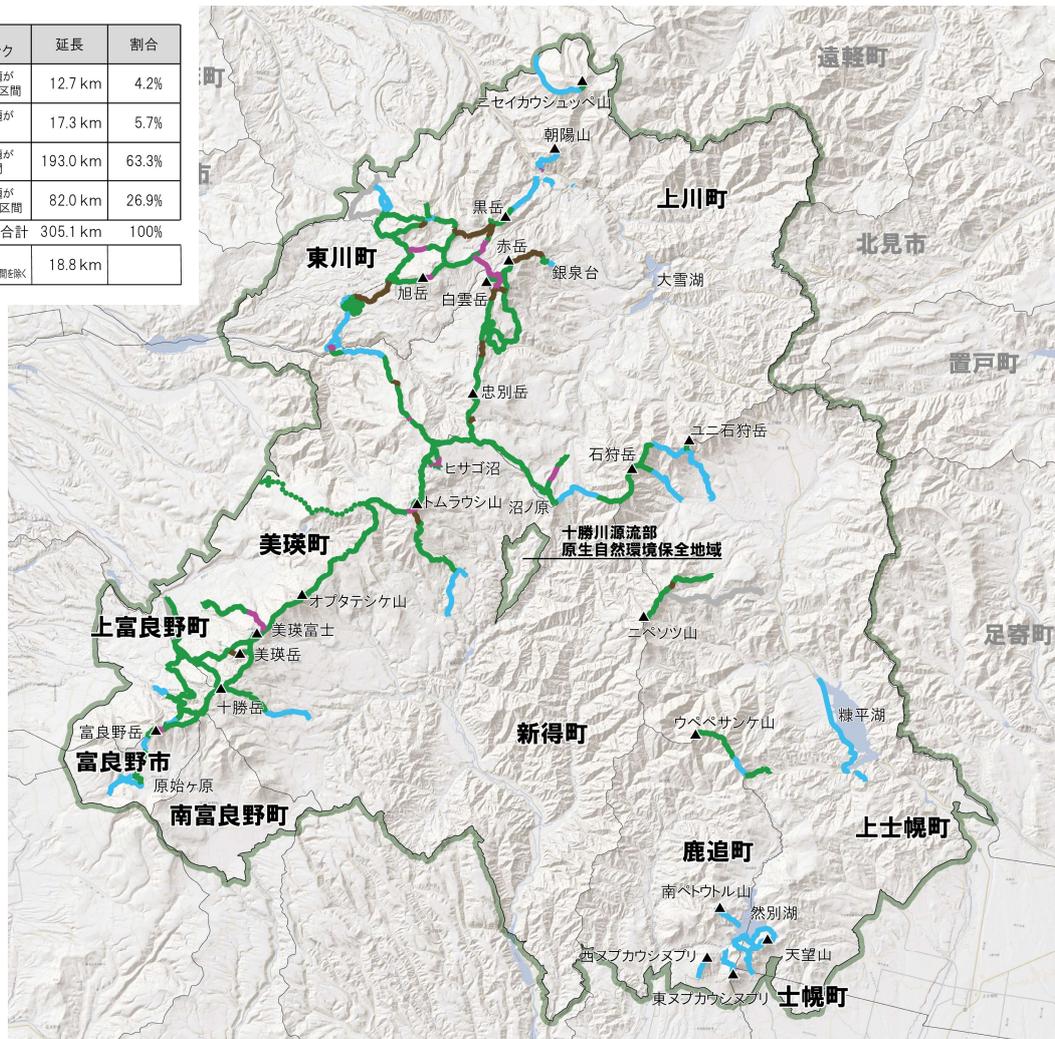
②利用上の課題

i) 施設の荒廃と老朽化

大雪山国立公園の登山道は、火山噴出物に由来することから脆弱であり、登山利用による一定の荒廃は避けられず、対策をせず放置すると荒廃が止まらない区間もあります。

現在、国立公園内の登山道の約75%が保全上の課題がある区間とされています。

| 凡例 | 登山道の保全対策ランク | 延長 | 割合 |
|----|-------------------------|----------|-------|
| — | A 保全上の課題が極めて大きい区間 | 12.7 km | 4.2% |
| — | B 保全上の課題が大きい区間 | 17.3 km | 5.7% |
| — | C 保全上の課題が中程度の区間 | 193.0 km | 63.3% |
| — | D 保全上の課題が顕著ではない区間 | 82.0 km | 26.9% |
| 合計 | | 305.1 km | 100% |
| — | 非適用 今後供用の見込みがない区間を除く | 18.8 km | |



大雪山国立公園の歩道の荒廃状況

(大雪山国立公園登山道管理水準保全対策ランク(2015(平成27)年改定)の区間を示した図)

荒廃した登山道は歩きにくく、利用体験の質の低下につながります。なお、登山者は歩きやすい場所を求めて登山道の脇を歩き、さらに登山道の拡幅が進むなど、自然環境保全上の課題と密接に関連しています。

また、誘導標識、案内板、避難小屋等の施設の老朽化も課題です。



登山道の侵食

ii) し尿の問題

トイレの無い野営指定地や避難小屋を中心として、野外のし尿処理が問題となっています。登山道から外れて植生帯へ踏み込むことによる自然環境保全上の課題があるほか、排泄物やトイレトーパーが放置されることによる景観の悪化や利用体験の質の低下が生じています。



放置された排泄物やトイレトーパー

iii) 情報提供

大雪山国立公園では、特に誘導標識や案内板の多言語表記が不十分であり、外国人利用者の利用に問題が生じています。また、登山利用に関する情報を集約して発信する必要性が増してきています。近年、日本人、外国人を問わず、多くの登山者が情報を得ているスマートフォンを通じて大雪山国立公園の登山道に関する基礎的な情報を、実際に現地へ来る前に多言語により得ることができるようにする必要があります。

iv) 利用者間、利用者・管理者間で生じる問題

ドローンなど近年進展している新しい技術は、これまで山岳地域で利用されたことはないため、原生的な自然環境になじまないと考える利用者に不安や不快感を与え、利用者間でトラブルになる場合があります。また、大雪山国立公園における利用のルールやマナーに対する理解が不十分な外国人利用者が、登山道を外れて歩く、野営指定地以外にテントを張るなどの行動をとり、管理者との間でトラブルになるケースも生じています。

これらの①保全上の課題と②利用上の課題は、国立公園の問題であるばかりか、地域社会としての課題でもあります。例えば、登山道の荒廃、施設の老朽化、し尿の問題は、地域の観光資源の劣化とも言えますし、また、これらにより登山者数が減少することは、各市町の観光客の減少につながります。山岳地域の荒廃がさらに進行すれば山麓での湧水を活用した取組等もイメージダウンして地域の産業にも影響が及ぶ可能性があります。

これらの課題に十分対応できない理由は、社会の人口が減少して高齢化するなど時代が変化していく中で、公共事業も削減され行政において予算や体制を確保することが困難になってきていること、これまで維持管理の担い手となってきた山岳会の会員の高齢化による担い手不足などが原因と考えられます。

一方、大雪山国立公園の利用に関する調査では、協力金の支払いについて積極的な意思を有している利用者が一定程度いることが明らかになっています¹⁶。また、大雪山に繰り返し訪れ、登山道の補修や維持管理、清掃活動を行うイベント等にも参加するような大雪山のファンが増えてもいます。



登山道補修イベント

利用者の参加・協力には、協力金・寄付金など任意で自主的な金銭の協力と、ボランティア作業など任意で自主的な労力の提供があります。

大雪山国立公園の維持管理のために参加・協力したい人がお金や労力を提供するなど、多様な課題に対応するための新たな発想が必要です。

2) 利用拠点の低迷

①体験型利用の取組

利用者数が減少して事業者の経営が行き詰まった結果、廃屋が増えるなど、利用拠点が低迷していることも大きな課題です。大雪山国立公園の従来の景勝地の多くが閑散としています。



利用拠点の廃屋（撤去前）



廃屋撤去後に整備された園地

その原因として、各利用拠点で旅行形態の変化に応じた対応が模索されているものの、近年の旅行形態の変化に未だ十分に対応しきれていないことが考えられます。

近年、団体で自然の景勝地を周遊するスタイルから大きく変化し、旅行は個人の指向や好みにあわせて行われ、その楽しみ方も、遊べる、学べる、癒されるといった体験できるもの（コト消費）が人気で、旅行先で見る対象も、その土地でしか見られないものであるのか、“本物”であるのかという点が重視されます。これらに加え、旅行者がスマートフォンで写真を撮りSNSで発信したくなるような見栄えも重要となってきます。

そのため、既存の景勝地を再評価し、活かさきれていない観光資源を発掘し、それらがなぜこの土地でしか見られないのかなどのストーリーを整理、磨き上げた上で発信し、旅行者に体験をしてもらい満足感を得ていただくことが重要です。景観要素が際立って多い大雪山国立公園であれば、十分に可能と考えます。

②情報提供

体験型利用の取組を行う前提として、旅行前の人に情報を届けることや、利用者が現地を訪れた際に対象地や体験活動にアクセスするための情報発信が必要です。さらに、大雪山国立公園を訪れてからも、ビジターセンターや宿泊施設、野外の案内板等、近年増加する外国人旅行者が満足できる、多言語による適切な表示を含む情報提供が必要です。

3. 大雪山国立公園の目指す姿

大雪山国立公園では、荒廃や低迷を食い止め優れた価値を守ること、課題を解決することで自然環境や生物多様性の状態、利用体験の質を現状以上に豊かなものとするを指します。これにより、みんなが大雪山国立公園を誇りに感じ、世界の人々を魅了する山岳国立公園にしていきます。

具体的には、次の(1)～(4)の姿を目指していきます。それをひとことで表現すると、次のとおりです。

**まもり、活かし、つなげよう
みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園**

(1) 大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園

1) 山岳地域—大雪山グレードに応じた保全

登山道の荒廃や登山者の踏み荒らしによる植生、地形や土壌の改変・消失を回復させます。これらは、大雪山グレードに応じて原生的な自然環境が維持された地域から優先的に取り組みます。

気候変動やエゾシカの影響等による植生の変化を監視して、気候変動への適応に関する取組を検討します。また、セイヨウオオマルハナバチを始めとする外来生物の侵入、定着から、高山生態系を保全します。

これらにより、広大な原生的山岳景観、火山を基盤として広大さを形作る特徴的な地形と、その上に大規模に広がる生物多様性が守られた国立公園を目指します。

2) 山麓地域—多様な景観要素の保全

峡谷と柱状節理、湖、滝、温泉など、山麓地域の多様な景観要素を守り、特に利用施設から見える重要な景観要素については、その周辺の自然環境とともに良好な景観が確保された状態を目指します。

(2) 魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園

1) 山岳地域—大雪山グレードに応じた管理と利用

大雪山グレードに応じた登山道の管理により登山道の荒廃が解消され、周辺自然環境に調和した案内板、誘導標識等が整備され、野営指定地や避難小屋においては施設の更新と管理が行き届いた状態を目指します。

また、携帯トイレの普及、携帯トイレ関係設備の充実、既存の常設トイレの効果的な利用などにより、野外へのし尿排出をなくし、し尿の問題を解決します。

また、ドローンをはじめとする技術の進展等により新たな山岳地域における利用形態が生じ、利用者間又は利用者・管理者間で問題が生じるような時は、関係者間で対応を検討して解決し、快適に利用できる空間を維持します。

これらにより、大雪山グレードに応じた利用が行われ、大雪山の原生的で雄大な山岳景観を満喫できる状態を目指します。

2) 山麓地域—利用体験の質の向上

層雲峡温泉、愛山溪温泉、大雪高原温泉、旭岳温泉、天人峡温泉、白金温泉、吹上温泉、十勝岳温泉、トムラウシ温泉、然別湖、ぬかびら源泉郷、土幌高原などすべての利用拠点において、その場所に滞在することを主要な目的とする旅行者を増やします。

そのために、大雪山国立公園の資源（温泉、峡谷、湖、雪等の景観要素のほか、これらを眺望したり体験したりできる歩道、園地、乗り物、施設¹⁷等。）を、世界中で大雪山国立公園でしか体験できない“本物”を感じるストーリーを持つコンテンツに磨き上げ、SNSに発信したくなるような新たな体験の仕方が提案され、それを支える体制を各利用拠点で整えます。

また、これら利用拠点の宿舍等、施設の改修、更新にあわせ、省エネルギーの設備導入や地域の再生可能エネルギーの使用による温室効果ガスの削減、廃棄物の削減や資源の循環を促進することを通じて、大雪山国立公園の利用拠点が、地域循環共生圏¹⁸の中核としての役割を果たして自然と共生していくイメージ（付加価値）を付け、それを利用者浸透させます。

これらにより、山麓地域の利用体験の質の向上を目指します。

17 施設については国立公園の公園計画（利用施設計画）に位置付けられたものに限る。

18 「地域循環共生圏」とは、各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方で、2018（平成30）年4月に閣議決定した第五次環境基本計画で提唱。



(3) つながっていく国立公園

1) 来訪者に向けた情報発信

旅行や登山の準備段階において、大雪山国立公園に入ってから出るまでの間に必要な情報についてインターネット等を通じて、わかりやすく得られる状態を目指します。また、各利用拠点を中心としてネットワークを形成し、質の高い利用体験がいつ、どこで、又はどの施設にコンタクトを取ればできるかという情報が発信できる状態を目指します。

旅行者や登山者が実際に大雪山国立公園に来訪した際には、各施設等で必要な情報に接することができ、求める情報にアクセスしやすいよう、窓口や案内板やサインの表記が充実した状況を目指します。

また、増加する外国人利用者に対しても、必要な情報が多言語で発信されることを目指します。

情報発信を充実させることにより、利用者の満足度の向上だけでなく、山岳地域においては、遭難の減少や安全確保が実現します。

2) 大雪山国立公園に関わるすべての人々に向けた価値の発信

大雪山国立公園の持つ優れた価値、荒廃や低迷を食い止め課題を解決するための取組、目指す姿が実現した状態を、大雪山国立公園に関わるすべての人々に発信するとともに、日本国内さらには世界に発信し続けることで、大雪山国立公園の価値が理解され、共有された状態を目指します。

これにより、大雪山国立公園が地域の誇りとなるばかりでなく、世界の人々を魅了し何度でも訪れてみたいと思う国立公園を目指します。

(4) みんなが協働して管理運営する国立公園

1) 協働型管理運営体制の維持

私たち(大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)構成員)は、国立公園に関わる多様な立場の機関、団体が参画する協働型の管理運営体制を維持し、大雪山国立公園の目指す姿を実現する取組を進めます。

なお、私たちは、地域、観光、産業の振興、自然保護などそれぞれ立場や目的が異なる団体が構成されていますが、大雪山国立公園のために自分たちができること、貢献できることを考えて実施します。また、大雪山国立公園を通じて地域社会の課題解決にも寄与していきます。

2) 管理運営への利用者の参加、周辺地域との連携

このビジョンは、私たちに加え、大雪山国立公園の利用者、関係するあらゆる人々(みんな)と共有し、浸透させます。そして、みんなで目指す姿を実現するための取組を実施します。具体的には、大雪山国立公園の管理運営に参加・協力したい人がお金や労力を提供できる仕組みが整った状態を目指します。

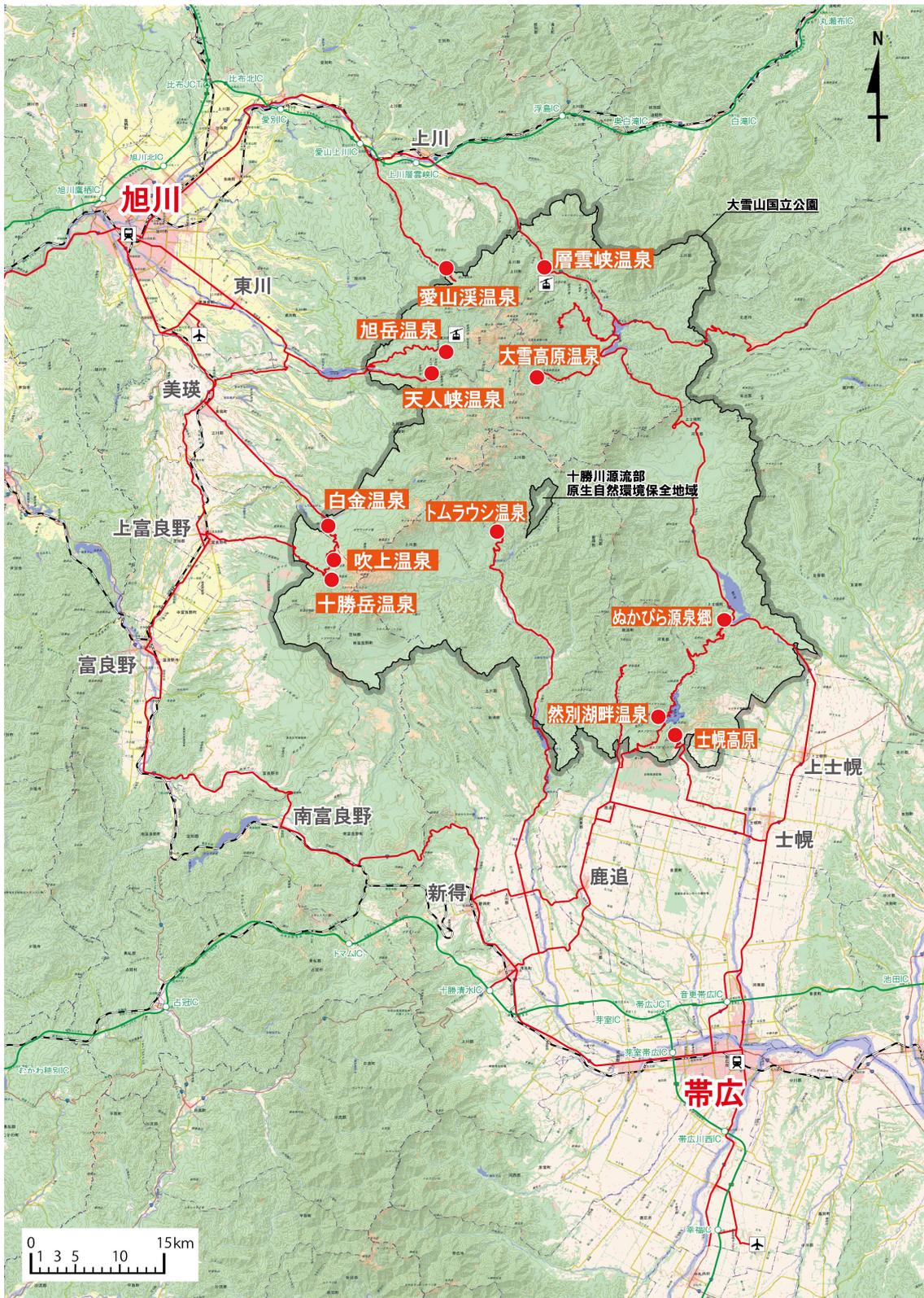
また、大雪山国立公園周辺の旭川地域、帯広地域は、大雪山国立公園にアクセスする拠点です。国立公園外の地域から大雪山を見ると、雄大な山々が連なる素晴らしい景観を見ることができます。旭川地域、帯広地域などの地域も、大雪山国立公園にとって重要な地域であると考え、今後は、両地域との連携をさらに推進し、両地域においても大雪山国立公園の情報が発信される状態を目指します。

3) みんなが学び成長し、将来世代へ引き継ぐ国立公園

大雪山国立公園を取り巻く自然的、社会的環境は今後も急速に変化していくことが予想されます。今後の変化に柔軟に対応しながら目指す姿を実現していくためには、みんなが学び、成長していくことが重要です。

このビジョンを実現するために必要な具体的な取組を実施できる人材を育成する観点から、学びを支援する体制が整った状態を目指します。

みんなで、これらの目指す姿が実現した国立公園を、後世まで地域の宝として守り続け、将来世代に引き継いでいきます。



大雪山国立公園と旭川地域、帯広地域の位置関係



4. ビジョンの実現に向けて

(1) 取組の方向性と具体的取組の実施に向けて

ビジョンを実現するために、協働型の管理運営体制のもと、利用者の参画も得つつ、別添の取組を適切に実施していく必要があります。

具体的には、ビジョンの内容を大雪山国立公園管理運営計画に位置づけるとともに、同管理運営計画を構成する管理運営方針、風致景観及び自然環境の保全に関する事項、適正な公園利用の推進に関する事項に、別添の取組を軸にビジョンの記述を反映させ、実施していくことが必要です。

(2) ビジョンの評価について

2024（令和6）年度の大雪山国立公園 90 周年を一つの区切りとして、国立公園に関わる多様な立場の機関、団体のそれぞれが、また、利用者、関係者すべてがビジョンに基づき自らできる取組を考え、協力して実行していきましょう。そして今から 10 年後の 2030（令和 12）年を目標として大雪山国立公園のビジョンの達成状況を評価し、将来にわたって優れた国立公園の管理運営を実現していきます。

別添 ビジョンを実現するための取組例

1. 大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園の実現

- 大雪山グレードに応じた歩道の補修等維持管理の促進
(植生の回復、地形・土壌の浸食防止)
- 気候変動による影響と適応策検討のためのモニタリング
(国立公園等の保護区における気候変動への適応策検討の手引き、平成 31 年、環境省自然環境局)
- セイヨウオオマルハナバチのモニタリング、防除活動
(大雪山国立公園高山帯におけるセイヨウオオマルハナバチ防除の考え方、平成 30 年、環境省北海道地方環境事務所)
- エゾシカによる植生への影響把握、対応の検討
- 森林植生の復元活動の継続 (十勝三股園地、ミユビゲラの森など)

2. 魅力を生かし、質の高い利用体験ができる国立公園の実現

(1) 山岳地域

- 適切な歩道維持管理のための基盤形成
(未執行区間、課題のある区間の段階的解消、最終的な全区間適正化等)
- 大雪山グレードに応じた歩道の補修等維持管理の促進【再掲】
- 歩道関連施設の整備、更新
- 歩道の適正利用 (大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言を含む)
- 利用者参加による管理運営、維持管理の検討
(利用者の自主的な金銭・労力の提供、民間による資金の活用)
- 外国人利用者対応の充実

(2) 山麓地域

- 利用可能な資源の発掘、ストーリーづくり、新たな体験の提案、発信
- 利用拠点の満足度向上
- 安心・安全の確保
- 外国人利用者対応の充実【再掲】

3. つながっていく国立公園の実現

- 一元的な情報発信
- 利用拠点間のネットワーク化 (ビジターセンター等の利用施設間の連携)
- 大雪山国立公園で行われる活動の認定等 (パートナーシップ)



4. みんなが協働して管理運営する国立公園の実現

- 総合型協議会の構築と維持
- 利用者参加による管理運営、維持管理の検討
(利用者の自主的な金銭・労力の提供、民間による資金の活用)【再掲】
- 国立公園内外の連携やプロモーションの促進
(※一元的情報発信、モデル的な事例づくりと国立公園外(関係10市町の国立公園区域外)への普及)
- ビジターセンター等の国立公園の拠点施設における学びの支援
(関係団体・関係者が行うフォーラムや講座等)
- 上記1及び2の実現のための調査・研究の推進、研究成果の大雪山国立公園関係者へのフィードバックと、データの活用
- 大雪山国立公園の管理有効性評価の実施

大雪山国立公園ビジョン

まもり、活かし、つなげよう
みんなでつくる、
世界を魅了する大雪山国立公園

別冊：参考資料

- 大雪山グレード（大雪山国立公園登山道管理水準 利用体験ランク）
- 大雪山国立公園登山道管理水準 保全対策ランク
- 大雪山国立公園における歩道の事業執行状況
- 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言
- 大雪山国立公園利用者数
- 各利用拠点利用者数
- 大雪山国立公園登山者数の変化
- 気候変動による将来予測
（高山植物生育適地の変化、大雪山における紅葉の色づきの変化、年間降水量）
- 大雪山国立公園を含む周辺地域の利用動態

令和2年 月時点版

（本資料は掲載している資料の内容が変更となった場合随時更新して新しくしていきます。）

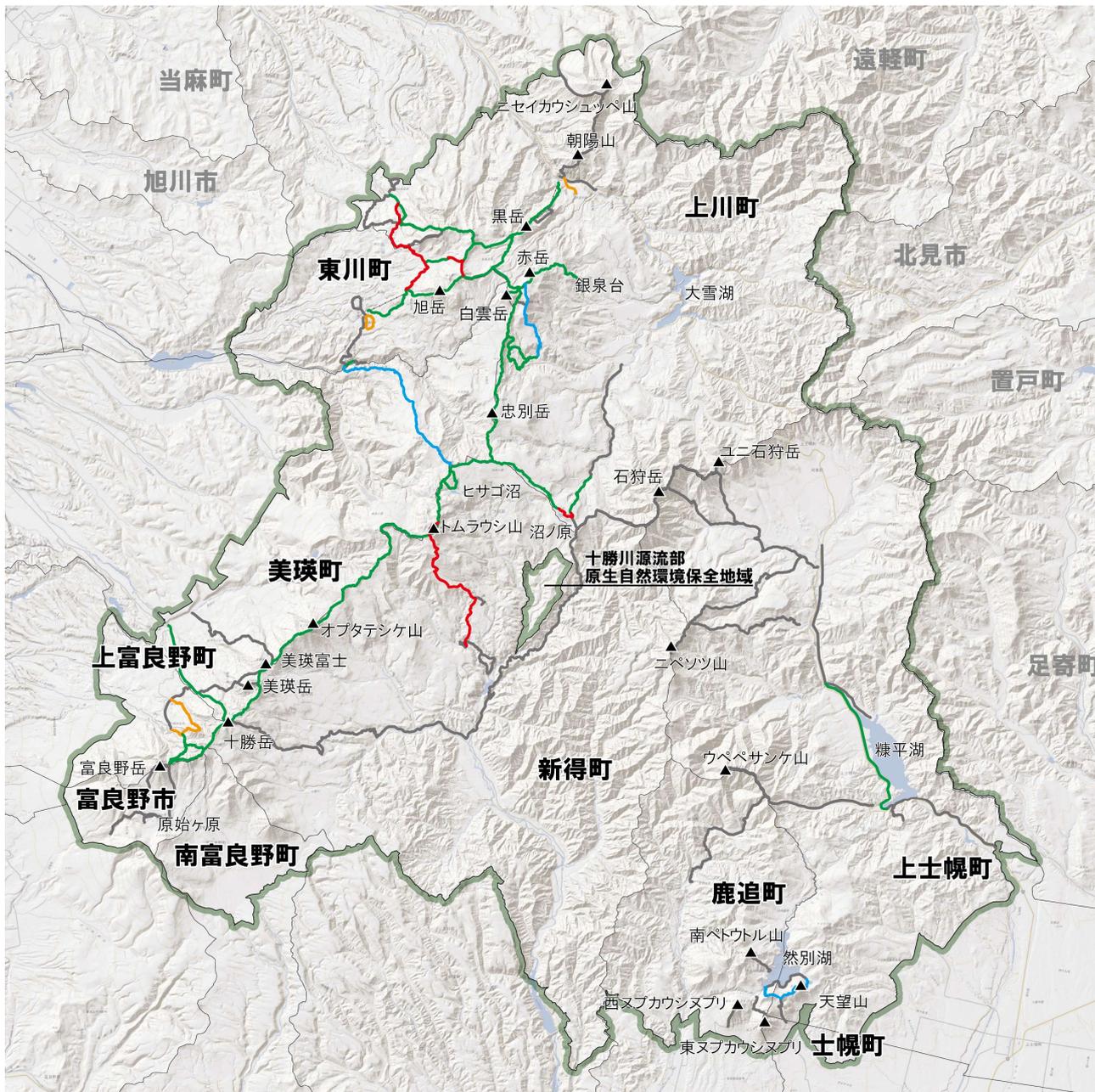
大雪山グレード(大雪山国立公園登山道管理水準 利用体験ランク)



大雪山国立公園登山道管理水準 保全対策ランク



■ 大雪山国立公園における歩道の事業執行状況



| 凡 例 | 事業執行者 | 延長 | 割合 |
|---------------------------------------|-------|----------|-------|
| — | 環境省 | 24.3 km | 5.7% |
| — | 林野庁 | 22.2 km | 5.2% |
| — | 北海道 | 132.4 km | 31.2% |
| — | 自治体 | 8.9 km | 2.1% |
| — | 未執行 | 236.8 km | 55.8% |

合計 424.5 km

■ 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言

大雪山国立公園の広大な高山帯には色とりどりの高山植物が咲き誇る美しい景観が広がり、多くの登山者を魅了するとともに、地域の誇りとなっています。

しかし、トイレがない避難小屋や野営地を中心に、し尿の散乱が大きな問題となっています。し尿を排出するため登山道以外の場所を踏みつけることで高山植物が減少し、さらに、裸地が拡大し、踏み分け道の伸張により土壌の流出も生じてしまいます。

原生的で人工的構造物の極めて少ない大雪山国立公園の自然景観を末永く保全し、登山者や地域が今後も大雪山国立公園の魅力を享受し続けるためには、し尿散乱問題を大規模な施設整備によって解決するのではなく、携帯トイレの活用によって解決する必要があります。

そこで、私たちは、携帯トイレを活用して、関係者すべてがそれぞれできる取組を少しずつ行うことで、し尿散乱問題を解決するため、次のことを宣言します。



大雪山国立公園では、

1. 携帯トイレを適切に使用することで
雄大で原始的な景観と共存する登山を推進します。
2. 登山者に快く携帯トイレを使ってもらえるような環境づくりを行います。
3. 登山者に対して携帯トイレの利用を推進するための呼びかけを行います。
4. 携帯トイレの普及に協力してくれる人の輪を広げます。

平成30年7月10日

大雪山国立公園連絡協議会、旭川勤労者山岳会、旭川山岳会、上川山岳会、上富良野十勝岳山岳会、新得山岳会、十勝山岳連盟、美瑛山岳会、富良野山岳会、札幌山岳連盟、日本山岳会北海道支部、日本ヒマラヤ協会北海道、HAT-J北海道支部、

北海道勤労者山岳連盟、北海道山岳ガイド協会、北海道山岳連盟、北海道道央地区勤労者山岳連盟、山のトイレを考える会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会

「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を実施するための具体的な取組

1. 雄大で原始的な景観と共存する登山の推進

野外し尿が周囲の自然環境へ大きな影響を与えうる水源地や脆弱な高山植生帯、または他の登山者に対して著しい不快感を与えうる野営指定地等では、携帯トイレの使用による野外し尿ゼロを目指します。

2. 環境づくり

(1) 携帯トイレブースの設置や維持管理

- 美瑛富士避難小屋及び南沼野営指定地では、連携・協力して、取組を着実に実施します。
- 携帯トイレブースが必要な箇所については、環境省、北海道、各市町、関係団体が相互に連携、協力して、携帯トイレブースの設置とその後の維持管理を検討します。

(2) 携帯トイレの回収体制

- 必要箇所に携帯トイレ回収ボックスを設置することを推進します。
- 回収ボックス維持管理体制を確認、共有し、情報を更新、公開することを通じて、回収体制を維持、強化します。

(3) 利用者向け情報発信

- 携帯トイレの入手可能箇所、トイレマップに関する情報発信を行います。

3. 登山者への呼びかけ

―登山者に対して、次の呼びかけを行います。

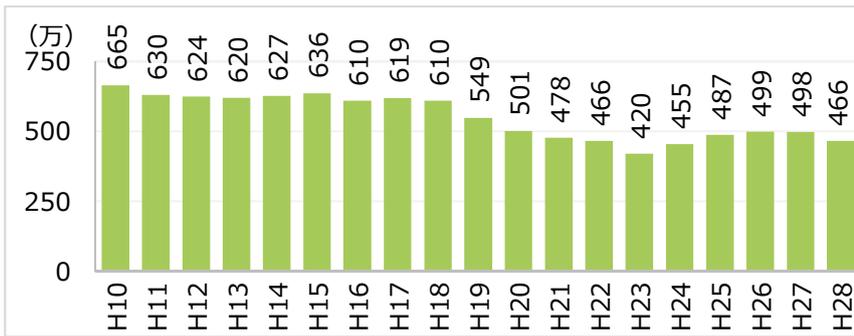
- 大雪山国立公園では、携帯トイレを常に持参すること。
- 常設トイレは適切に使用し、携帯トイレは常設トイレがない箇所で使用すること。
- 現にし尿散乱が大きな問題となっている美瑛富士避難小屋や南沼野営指定地をはじめ、宿泊地など登山者が集まる場所や水源地では、携帯トイレを確実に使用し、野外にし尿を排出しないようにすること。
- 登山道の途中など問題となっていない場所でも、携帯トイレを使用し、持ち帰るよう努めること。

4. 輪を広げる

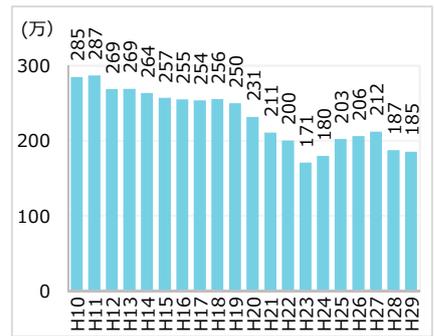
―関係機関、団体、事業者に対して、次の呼びかけを行います。

- 携帯トイレの普及啓発活動、利用者向け情報発信の実施に協力すること。
- この宣言の趣旨に賛同する、携帯トイレ普及パートナーになること。
- 利用拠点や登山用品を扱う事業者は、携帯トイレ販売に協力すること。
- ガイド事業者は、自己の客に携帯トイレの使用を働きかけること。
- 携帯トイレやアウトドア製品を製作する事業者は、利用者と協力して、より使いやすい携帯トイレの開発や、携帯トイレを快適に使えるような登山用具を開発し、販売及び普及に努めること。

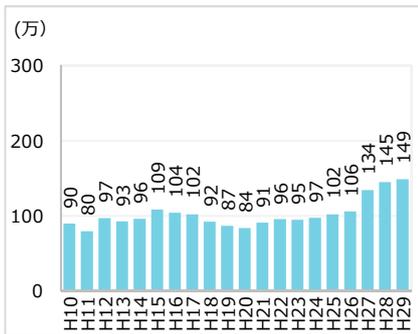
■ 大雪山国立公園利用者数



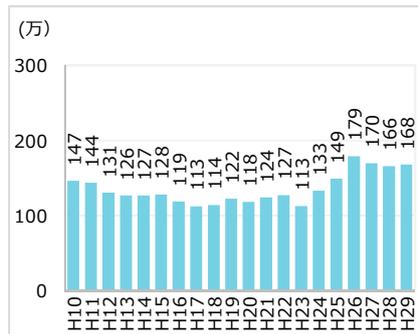
大雪山国立公園利用者数※1



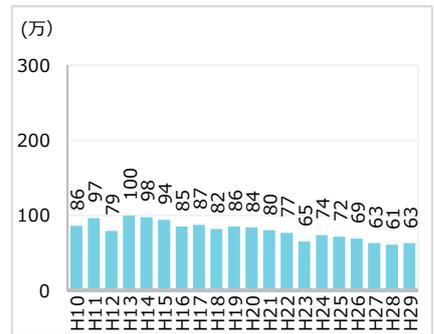
上川町の観光入込客数※2



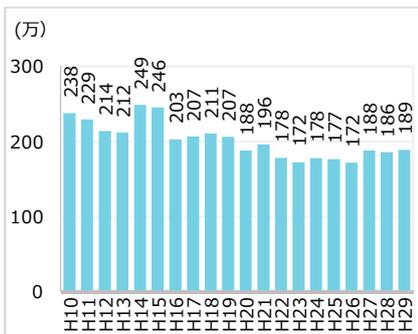
東川町の観光入込客数※2



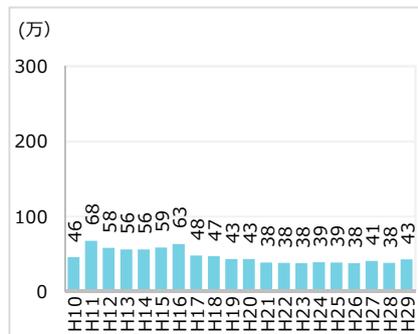
美瑛町の観光入込客数※2



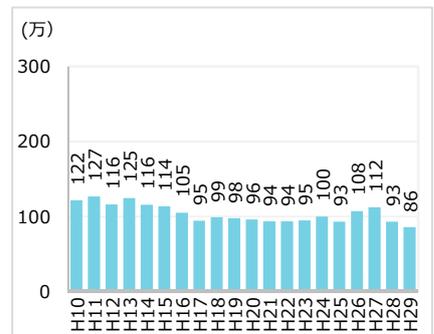
上富良野町の観光入込客数※2



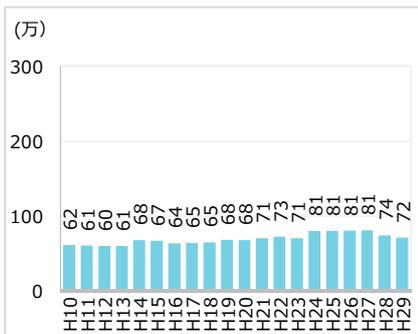
富良野市の観光入込客数※2



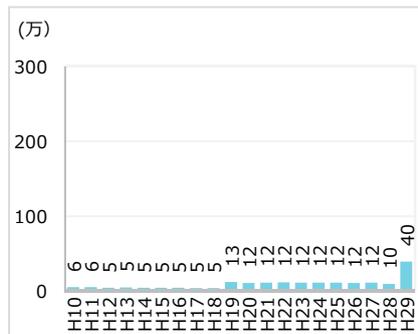
南富良野町の観光入込客数※2



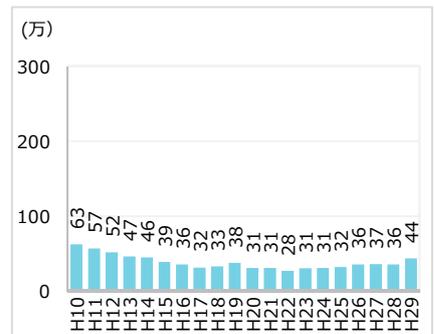
新得町の観光入込客数※2



鹿追町の観光入込客数※2



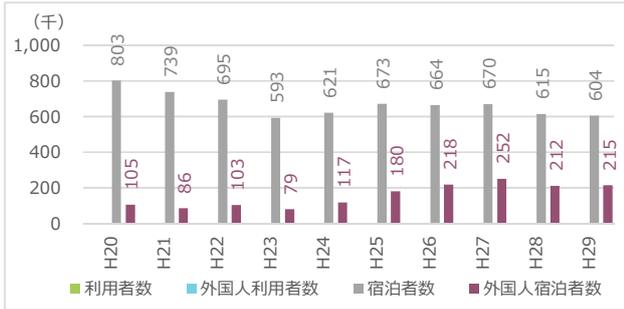
士幌町の観光入込客数※2



上士幌町の観光入込客数※2

※1 「自然公園等利用者数調査」国立公園利用者数（公園、年次別）（環境省）より
 ※2 「北海道観光入込客数調査報告書」（北海道経済部観光局）より

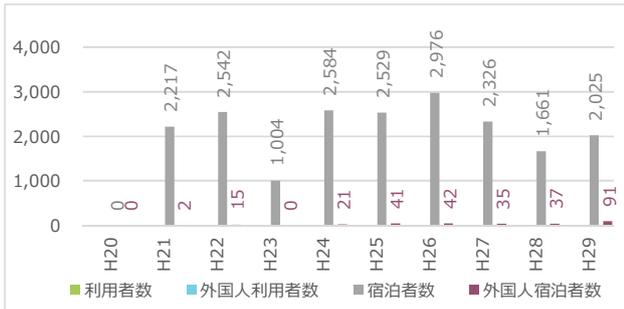
■ 各利用拠点利用者数



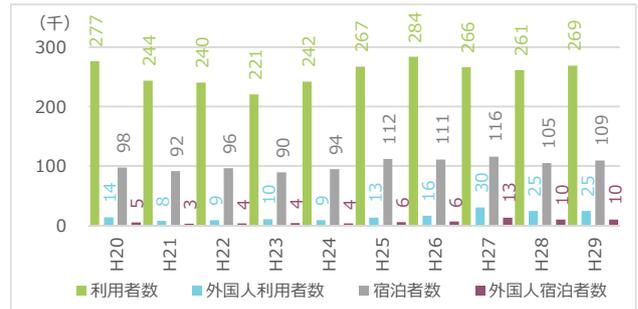
層雲峡※1



愛山溪※1



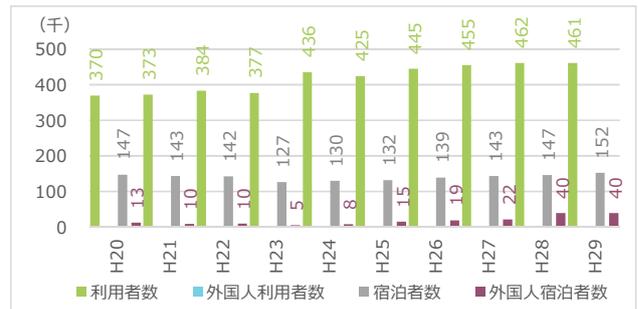
高原温泉※1



旭岳温泉※2



天人峡※2



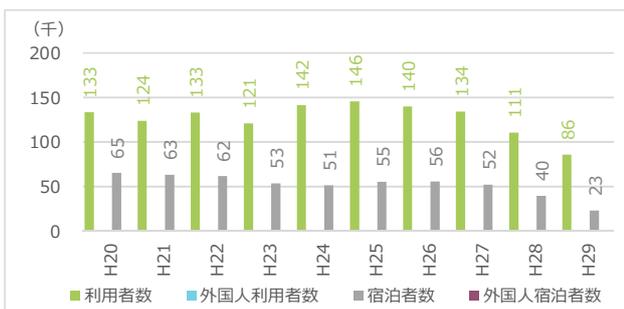
白金温泉※3



十勝岳温泉※4

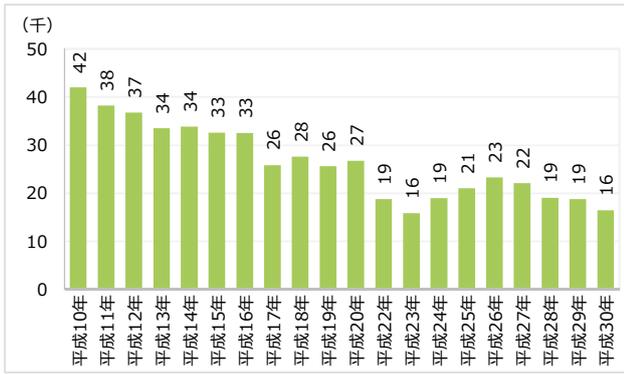


トムラウシ温泉※5

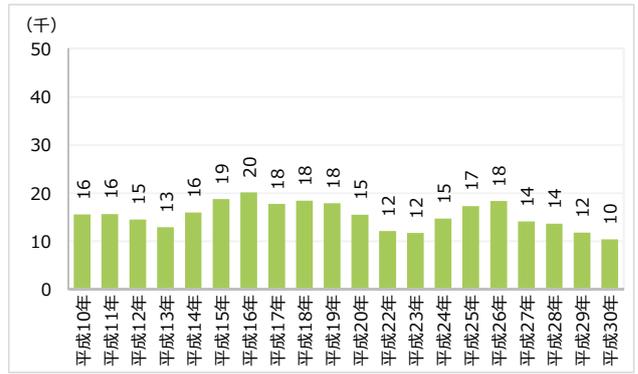


然別湖※6

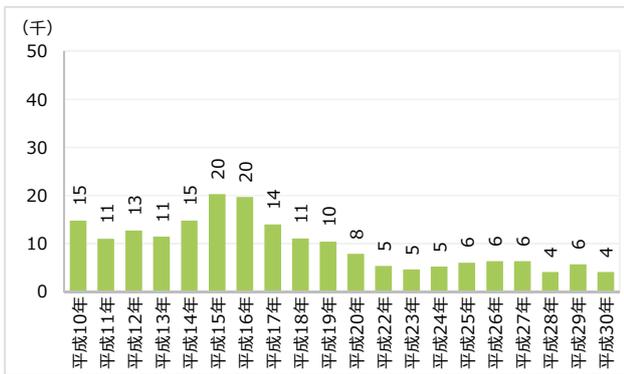
- ※1 (一社) 層雲峡観光協会提供資料より
- ※2 (一社) ひがしかわ観光協会提供資料より
- ※3 (一社) 美瑛町観光協会提供資料より
- ※4 (一社) かみふらの十勝岳観光協会提供資料より
- ※5 北海道新得町観光協会提供資料より
- ※6 鹿追町観光協会提供資料より



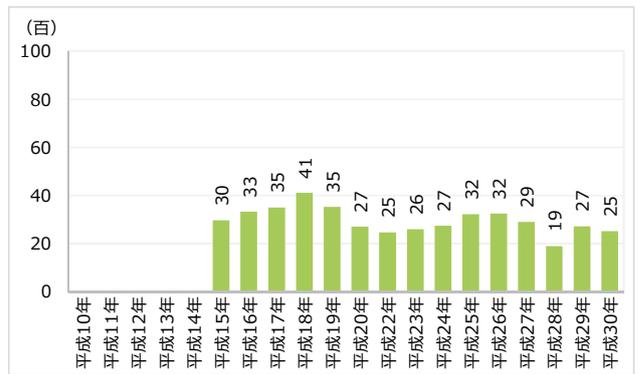
黒岳5合目登山口（入林簿記入者数）



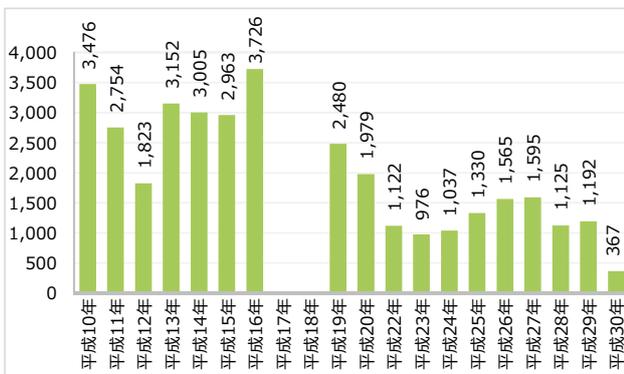
赤岳登山口（入林簿記入者数）



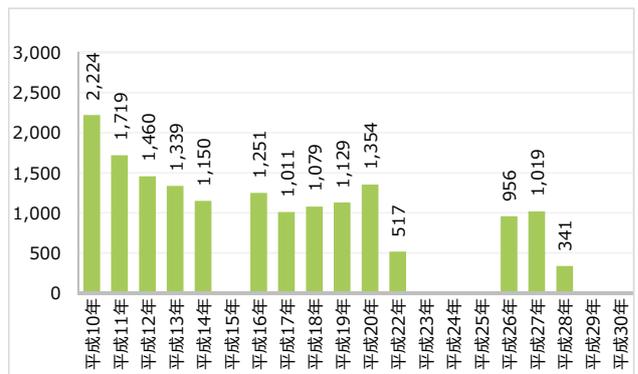
高原温泉登山口（沼めり登山口入）（入林簿記入者数）



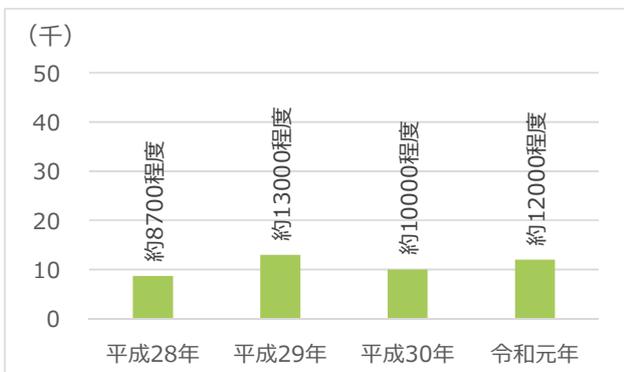
緑岳登山口（入林簿記入者数）



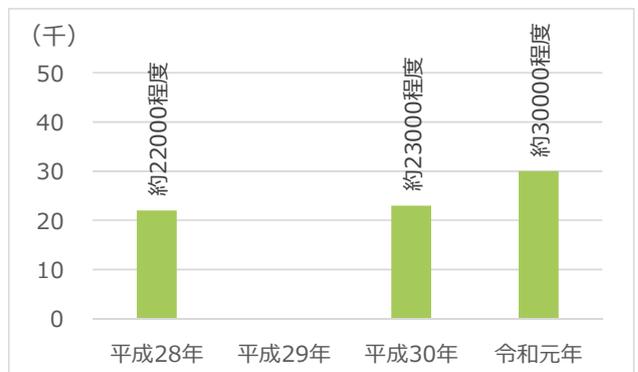
愛山溪温泉登山口（入林簿記入者数）



沼ノ原登山口（入林簿記入者数）



姿見の池（裾合平方面）（登山者カウンター数）



姿見の池（旭岳）（登山者カウンター数）

※登山者カウンター数：「大雪山国立公園入山者数の推計結果（登山者カウンター等カウント値結果）」

(<https://www.env.go.jp/park/daisetsu/data/tozandoriyosya2016.html>) より

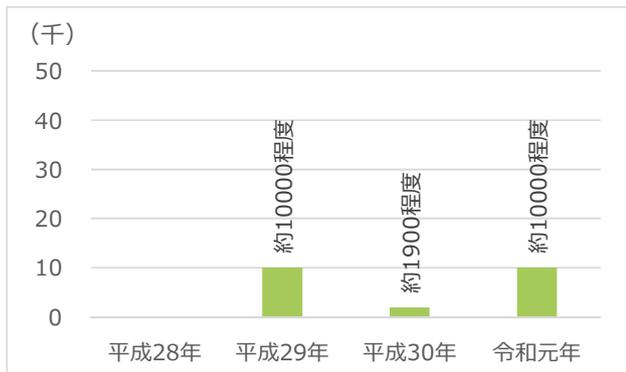
※入林簿記入者数：上川町提供資料（ただし、平成17年・18年度のみに上川森林事務所による）より（林道閉鎖のためカウント無しの年あり）



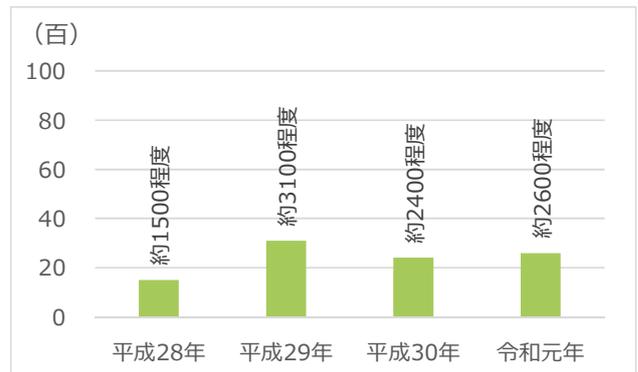
美瑛富士登山口（登山者カウンター数）



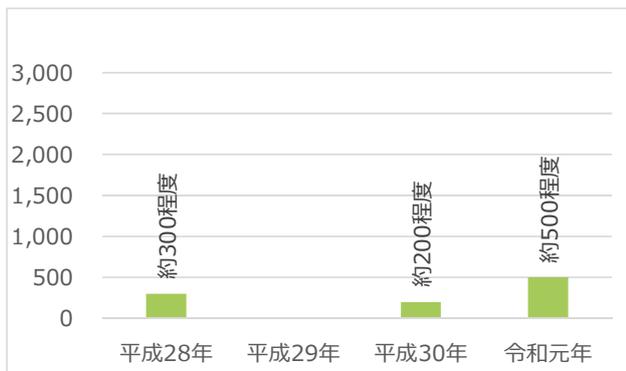
十勝岳登山口（十勝岳方面）（登山者カウンター数）



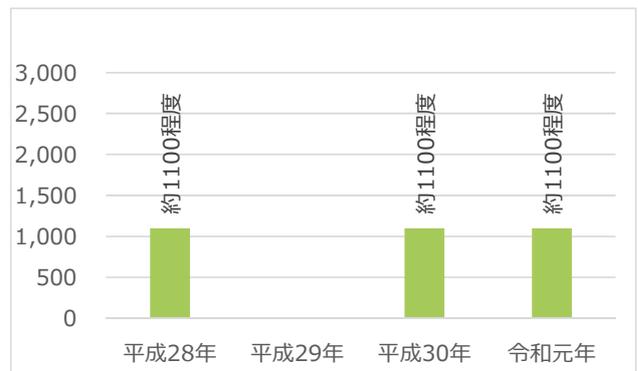
十勝岳温泉登山口（安政火口）（登山者カウンター数）



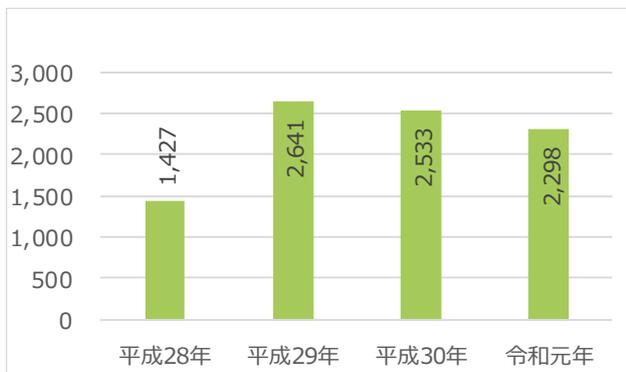
トムラウシ山（短縮コース）登山口（登山者カウンター数）



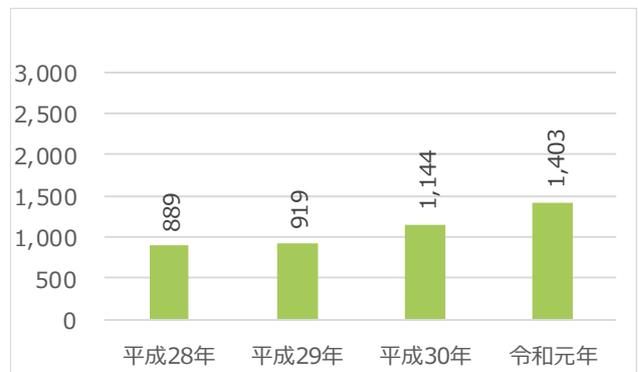
石狩岳シュナイダー登山口（登山者カウンター数）



ニペツツ山幌加温泉登山口（登山者カウンター数）



白雲山鹿追側登山口（入林簿記入者数）



東アプカウシヌプリ登山口（入林簿記入者数）

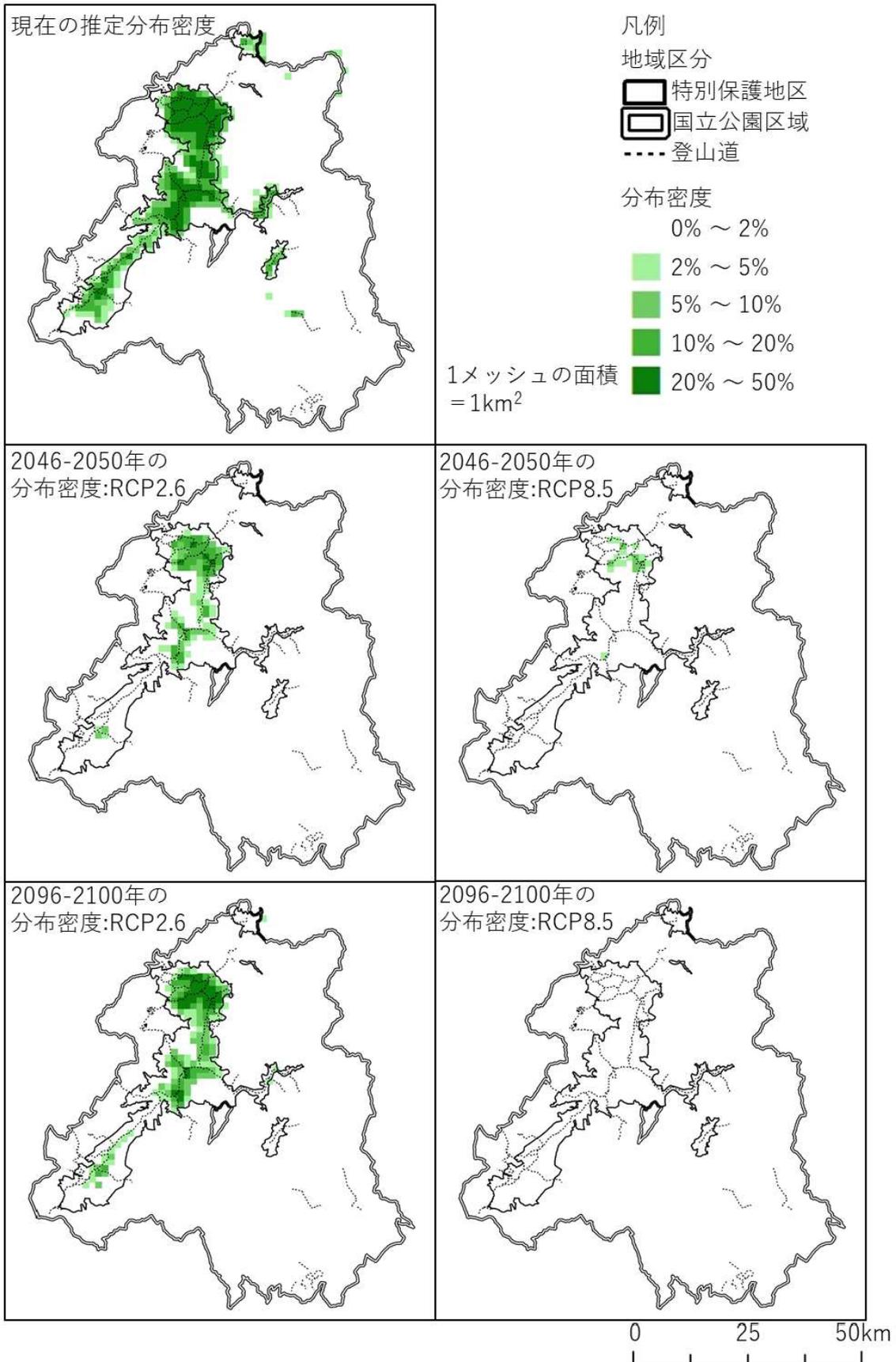
※登山者カウンター数：「大雪山国立公園入山者数の推計結果（登山者カウンター等カウント値結果）」

(<https://www.env.go.jp/park/daisetsu/data/tozandoriyosya2016.html>) より

※入林簿記入者数：上川町提供資料（ただし、平成17年・18年度のみ上川森林事務所による）より（林道閉鎖のためカウント無しの年あり）

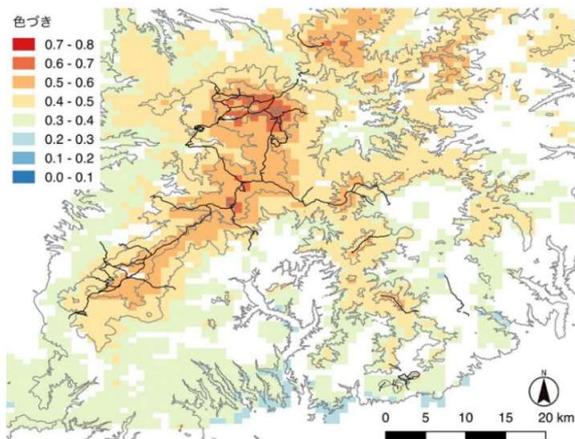
■ 気候変動による将来予測

高山植物生育適地の変化



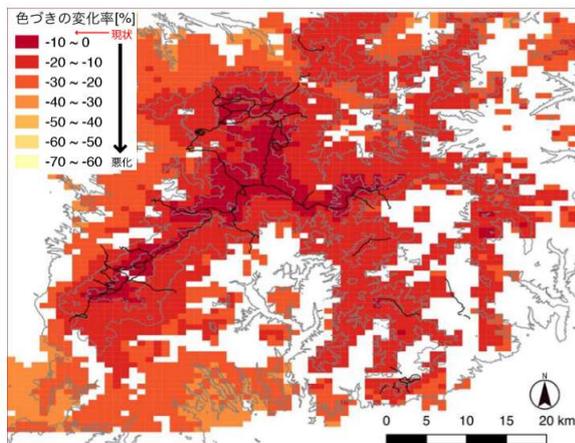
雪田草原群落の現在と将来の分布密度 (統計モデル間の平均値)

大雪山における紅葉の色づきの変化

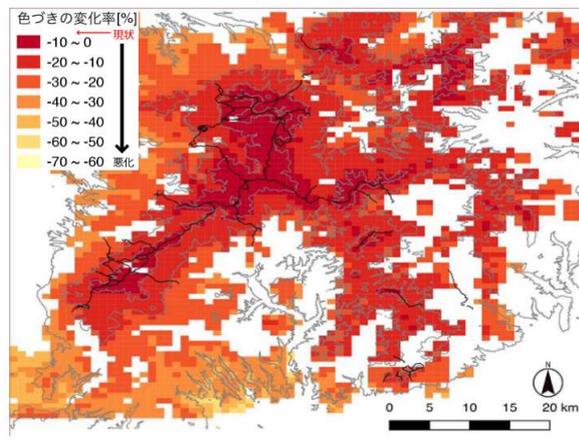


現在気候(1981~2010年)における紅葉の色づき分布図

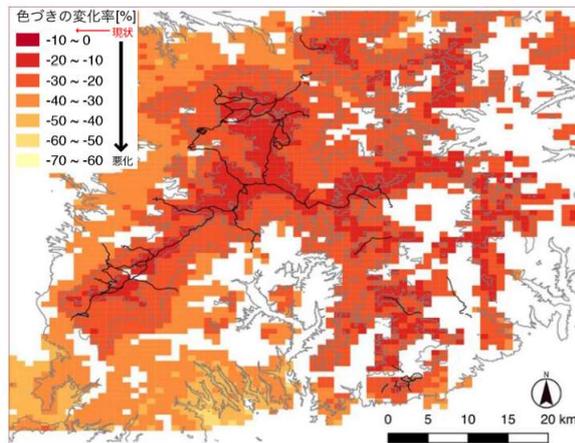
色づきの値は、VARI値によるものを示している。等高線は標高500m間隔で描画。上位5モデル当たりの平均値を描画。ウラジロナナカマダが含まれる植生タイプの分布がある3次メッシュのみを描画。



MIROC5※1 (RCP8.5)



MRI-CGCM3※2 (RCP8.5)



IPSL-CM5A-LR※3 (RCP8.5)

将来気候(2096~2100年)における紅葉の色づきの変化

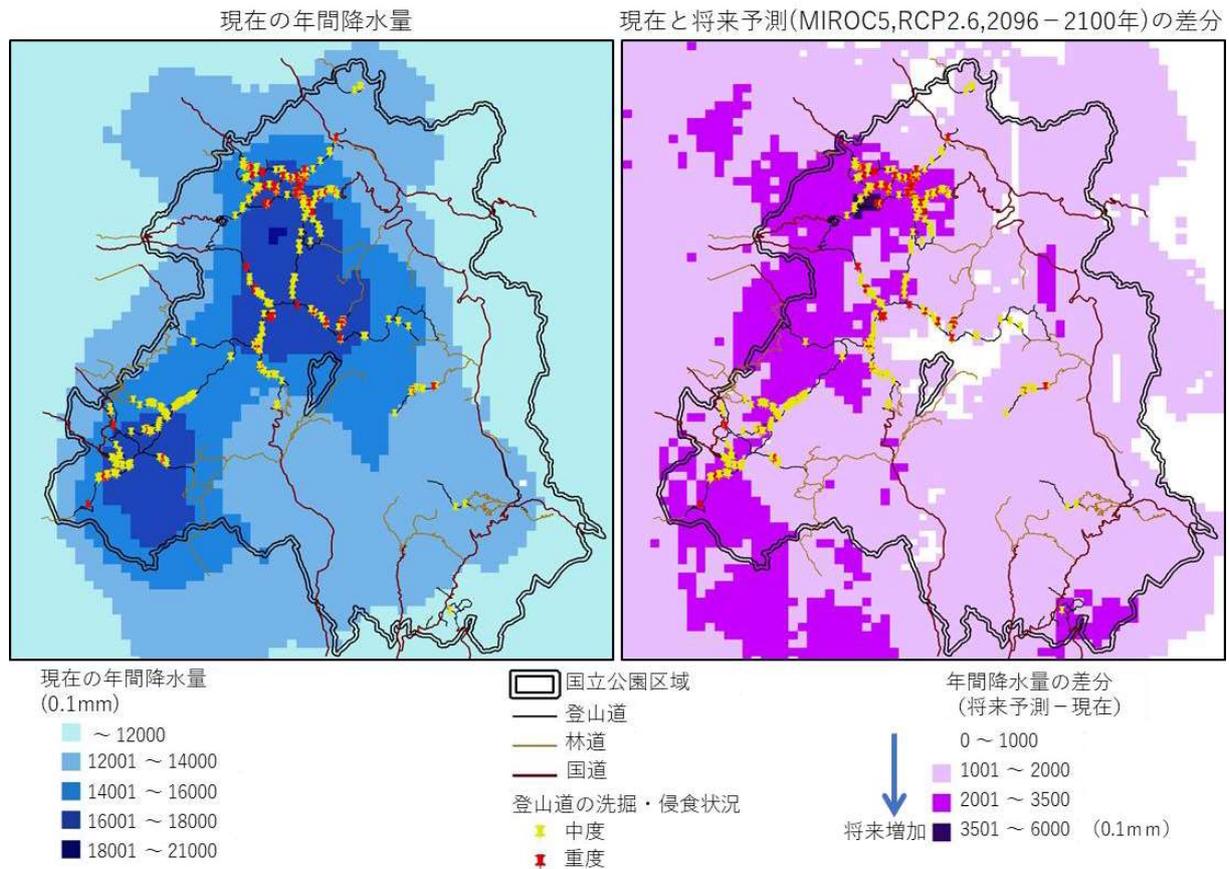
色づきの変化の値は、現在気候下でのVARI値からの比較として計算している。等高線は標高500m間隔で描画。上位5モデル当たりの平均値を描画。ウラジロナナカマダが含まれる植生タイプの分布が含まれる3次メッシュのみを描画。

- ※ 1 : 東京大学、国立環境研究所などが開発した気候モデル
- ※ 2 : 気象庁が開発した気候モデル
- ※ 3 : IPSLという海外の研究機関のコンソーシアムが開発した気候モデル

大雪山における紅葉の将来予測結果一覧

| | 色づき | 開始日 | 最盛日 | 終了日 |
|------------------|---------------------------|-----------------------|------|-------|
| 高標高域 (>1500m) | RCP8.5/2100年に 10~20%悪化 | RCP2.6/2050年 から早まる | 変化なし | 変化なし |
| 低標高域 (<1500m) | RCP8.5/2100年に 大きく悪化 | RCP2.6/2050年 から早まる | 変化なし | ばらつき大 |

年間降水量



降水量と登山道の洗掘・侵食程度

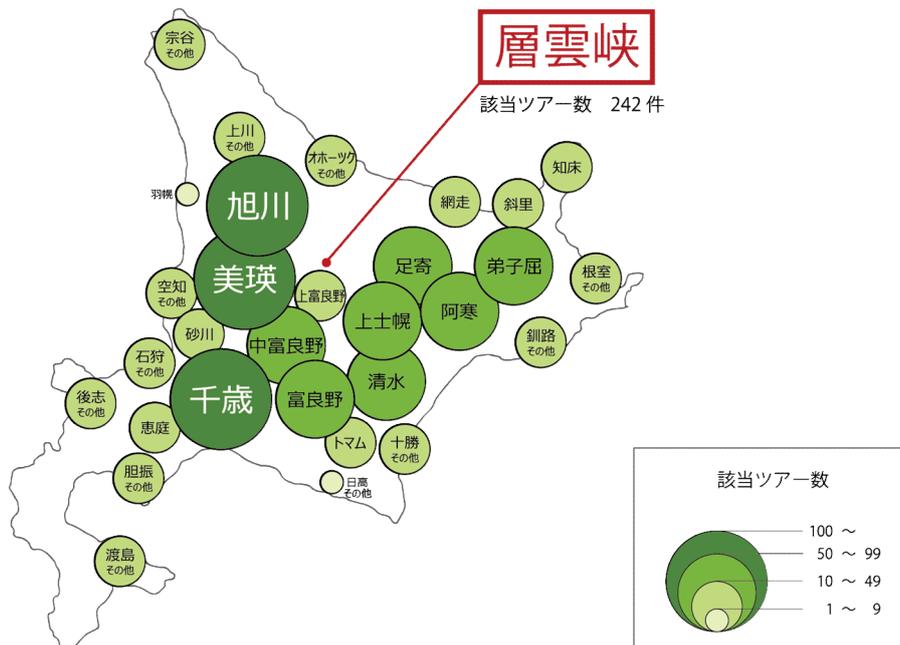
登山道の洗掘・侵食状況の評価

| 三段階の評価 | 洗掘・侵食の大きさ | 洗掘・侵食の状況 |
|--------|-----------------------|--------------------------------------|
| 軽度 | 幅 2m未満 深さ 0.2~0.6m | 自然要因による小規模な路肩崩落を含む |
| 中度 | 幅 2~3m程度 深さ 0.6~1m | 侵食なしの拡幅・人為要因による路肩崩落を含む 局所的な深掘れを含む |
| 重度 | 幅 3m以上 深さ 1m以上 | 侵食または流出土砂による植生損失を伴う 局所的な深掘れは除く |

※国立研究開発法人国立環境研究所「平成29年度生物多様性分野における気候変動への適応策検討業務報告書」(平成30年3月)より

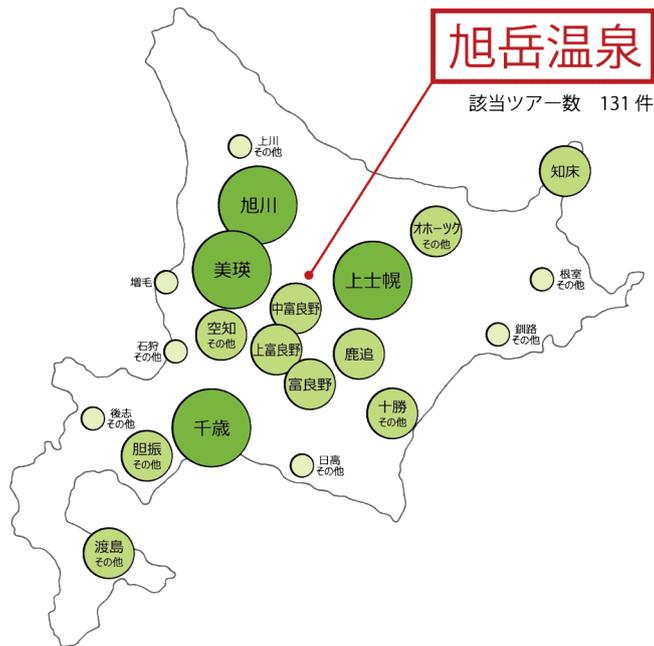
■ 大雪山国立公園を含む周辺地域の利用動態

- ◆ 利用拠点10地点（層雲峡、旭岳温泉、然別湖、白金温泉、高原温泉、天人峡、十勝岳温泉、トムラウシ温泉、ぬかびら源泉郷、愛山溪）とつながりの深い地点を図で示した
（なお、愛山溪はツアールート数が0件のため、記載していない）
- ◆ 2019年8月～9月の(株)阪急交通社・クラブツーリズム(株)・(株)エイチ・アイ・エスの取り扱うツアーを集計し、利用拠点ごとのツアールートを整理した



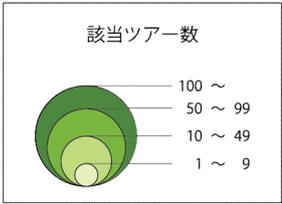
【層雲峡とつながりの深いツアールート】

- 道外→千歳→旭川→層雲峡→弟子屈→阿寒→足寄→清水町→美瑛→富良野→トマム→恵庭→千歳→道外
- 道外→千歳→砂川→稚内→礼文→利尻→稚内→猿払→浜頓別町→層雲峡→千歳→道外
- 道外→千歳→砂川→層雲峡→斜里町→知床→別海町→釧路市→阿寒→弟子屈→足寄→千歳→道外
- 道外→千歳→層雲峡→上士幌→層雲峡→旭岳→美瑛→上富良野→中富良野→富良野→千歳→道外
- 道外→千歳→稚内→紋別→知床→根室→弟子屈→阿寒→釧路市→えりも町→音更町→上士幌→層雲峡→美瑛→中富良野→札幌→京極町→洞爺湖町→壮瞥町→函館→七飯町→室蘭→登別市→千歳→道外
- 道外→千歳→美瑛→層雲峡→上士幌→層雲峡→旭岳→富良野→千歳→道外
- 道外→千歳→美瑛→白金温泉→美瑛→白金温泉→旭岳→層雲峡→上士幌→足寄→津別町→斜里町→清里町→鶴居村→十勝川温泉→音更→鹿追→清水町→千歳→道外
- 道外→層雲峡→高原温泉→層雲峡→旭岳→千歳→道外
- 道外→旭川→層雲峡→高原温泉→層雲峡→旭岳→道外
- 道外→函館→七飯町→鹿部→洞爺湖町→壮瞥町→登別→千歳→然別→足寄→弟子屈→阿寒→弟子屈→斜里町→知床→網走→北見→層雲峡→上川→天人峡→砂川→小樽→積丹町→ニセコ町→函館→道外



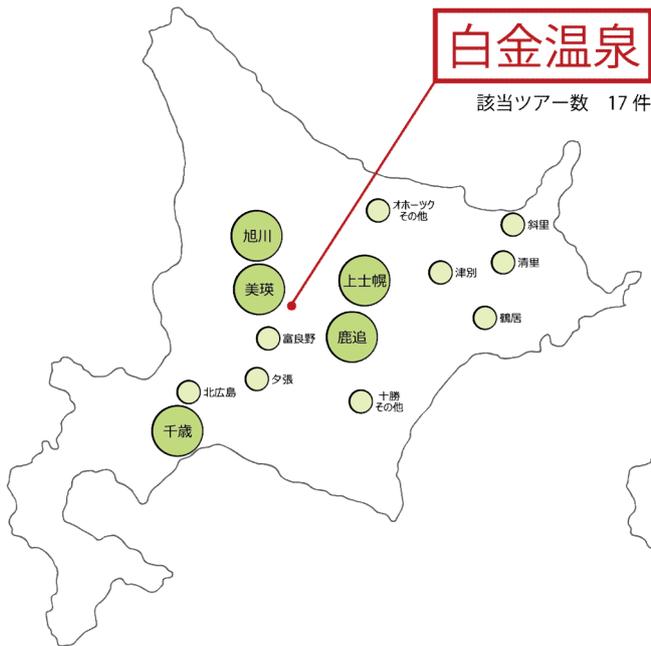
【旭岳温泉とつながりの深いツアールート】

- 道外→旭川→旭岳温泉→北見→遠軽→紋別市→網走→大空町→女満別→道外
- 道外→層雲峡→高原温泉→層雲峡→旭岳温泉→千歳→道外
- 道外→千歳→層雲峡→上士幌→層雲峡→旭岳温泉→美瑛→上富良野→中富良野→富良野→千歳→道外
- 道外→千歳→美瑛→層雲峡→上士幌→層雲峡→旭岳温泉→富良野→千歳→道外
- 道外→千歳→旭川→旭岳温泉→美瑛→上富良野→中富良野→旭川→砂川→千歳→道外



【然別湖とつながりの深いツアールート】

- 道外→千歳→十勝川温泉→然別湖→美瑛→上富良野→旭岳→北見→層雲峡→千歳→道外
- 道外→千歳→然別湖→上士幌→層雲峡→旭岳→旭川→千歳→道外
- 道外→函館→七飯町→鹿部→洞爺湖町→壮瞥町→登別→千歳→然別湖→足寄→弟子屈→阿寒→弟子屈→斜里町→知床→網走→北見→層雲峡→上川→天人峡→砂川→小樽→積丹町→ニセコ町→函館→道外

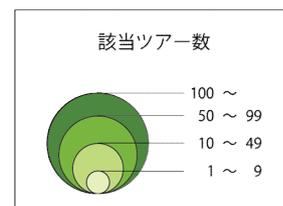


【白金温泉とつながりの深いツアールート】

- 道外→千歳→夕張→音更→鹿追→然別→上土幌→層雲峡→美瑛→**白金温泉**→美瑛→旭岳→千歳→道外
- 道外→千歳→夕張→鹿追→帯広→幕別町→上土幌→層雲峡→旭川→**白金温泉**→美瑛→旭岳→千歳→道外

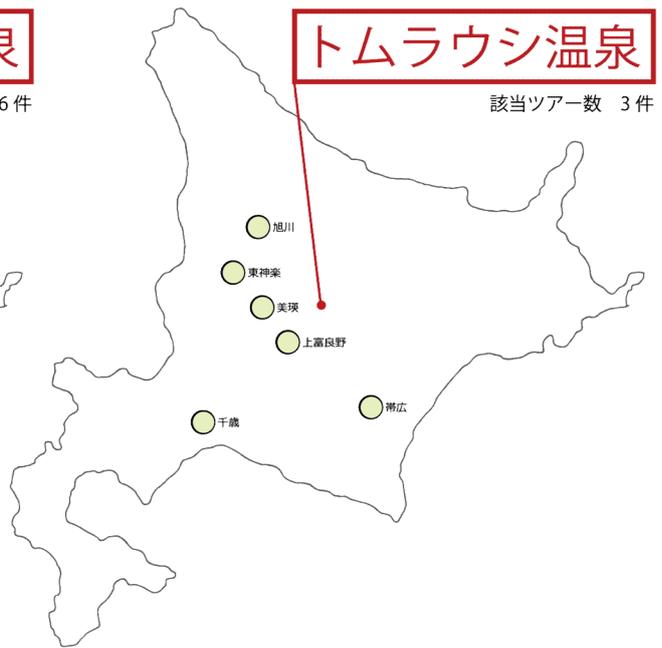
【高原温泉とつながりの深いツアールート】

- 道外→層雲峡→**高原温泉**→層雲峡→旭岳→千歳→道外
- 道外→旭川→層雲峡→**高原温泉**→層雲峡→旭岳→道外



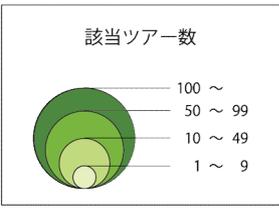
【天人峡とつながりの深いツアールート】

- 道外→函館→七飯町→鹿部→洞爺湖町→壮瞥町→登別→千歳→然別→足寄→弟子屈→阿寒→弟子屈→斜里町→知床→網走→北見→層雲峡→上川→**天人峡**→砂川→小樽→積丹町→ニセコ町→函館→道外
- 道外→帯広→鹿追→層雲峡→旭岳→**天人峡**→旭川→道外



- 【十勝岳温泉とつながりの深い主なツアールート】
- 道外→千歳→美瑛→白金温泉→富良野→**十勝岳温泉**→美瑛→白金温泉→富良野→美瑛→千歳→道外
 - 道外→千歳→**十勝岳温泉**→美瑛→トムラウシ温泉→千歳→道外

- 【トムラウシ温泉とつながりの深い主なツアールート】
- 道外→帯広→**トムラウシ温泉**→美瑛→旭岳→東神楽温泉→旭川→道外
 - 道外→千歳→十勝岳温泉→上富良野→美瑛→**トムラウシ温泉**→千歳→道外



- 【ぬかびら源泉郷とつながりの深い主なツアールート】
- 道外→苫小牧→夕張→十勝川温泉→豊頃→釧路市→弟子屈→阿寒→弟子屈→**ぬかびら源泉郷**→上士幌→上川→旭岳→美瑛→上富良野→中富良野→小樽→道外
 - 道外→帯広→音更→鹿追→然別→**ぬかびら源泉郷**→上士幌→高原温泉→層雲峡→北見→層雲峡→旭岳→上川→旭川→道外

令和2年度における暫定予算等について

大雪山国立公園連絡協議会
事務局

1. 暫定予算が必要な理由

- 大雪山国立公園連絡協議会では、サーバーを借りてホームページを運営して情報発信をしているところ。
※ホームページ URL <http://www.daisetsuzan.or.jp/>
- 令和2年度の事業計画及び予算は、令和2年9～10月頃に決定される見込みであるが、ホームページについては、中断なく維持し、大雪山国立公園の利用者等に情報提供をする必要がある。
- 大雪山国立公園連絡協議会ホームページサーバー維持管理費については、令和2年4月から発生しており、その経費を暫定予算として承認いただきたい。
- なお、支払い等については、令和2年9～10月(予定)の総会において承認後、令和3年3月に行う予定。

2. 令和2年度暫定予算(案)

- 大雪山国立公園連絡協議会ホームページサーバー維持管理費
- 期間：令和2年4月～令和3年3月
- 予算 220 千円

3. その他

- 大雪山国立公園連絡協議会として従前から実施してきており、今後も継続して実施することとしている取組(※)については、予算の執行を伴わず、事務局員の職員実行により実施できる範囲内において、取組を実施していきたい。

※大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言に関する取組
大雪山国立公園における登山情報の一元的発信 など

大雪山国立公園連絡協議会 幹事名簿

令和2年5月現在

| 分野 | 機関、団体等 | 幹事 |
|------------|---------------------|-----------------------------|
| 関係行政 機関 | 北海道地方環境事務所長 | 大雪山国立公園管理事務所長 |
| | 北海道上川総合振興局長 | 環境生活課長 |
| | 北海道十勝総合振興局長 | 環境生活課長 |
| | 富良野市長 | 商工観光課長 |
| | 上川町長 | 産業経済課長 |
| | 東川町長 | 旭岳ビジターセンター所長 |
| | 美瑛町長 | 商工観光交流課長 |
| | 上富良野町長 | 企画商工観光課長 |
| | 南富良野町長 | 企画課長 |
| | 士幌町長 | 産業振興課長 |
| | 上士幌町長 | 商工観光課長 |
| | 鹿追町長 | 商工観光課長 |
| | 新得町長 | 産業課長 |
| | 上川中部森林管理署長 | 総括森林整備官 |
| | 上川南部森林管理署長 | 総括事務管理官 |
| | 十勝西部森林管理署東大雪支署長 | 総括事務管理官 |
| | 北海道開発局開発監理部開発連携推進課長 | 開発連携推進課長 |
| | 北海道運輸局観光部長 | 旭川運輸支局首席運輸企画専門官 (企画調整担当) |
| 観光協会 | (一社) 層雲峡観光協会 | 事務局長 |
| | (一社) ひがしかわ観光協会 | 事務局長 |
| | (一社) 美瑛町観光協会 | 事務局長 |
| | (一社) かみふらの十勝岳観光協会 | 事務局長 |
| | (一社) ふらの観光協会 | 事務局長 |
| | NPO 法人南富良野まちづくり観光協会 | 事務局理事 |
| 交通事業者 | (株) りんゆう観光 | 層雲峡事業所長 |
| | ワカサリゾート (株) | 索道部次長 (遠藤毅) |

| | | |
|------------|--|----------------|
| | 道北バス（株） | 取締役運輸本部長（福内直樹） |
| | 旭川電気軌道（株） | 運輸次長（矢野寿典） |
| | 十勝バス（株） | 事業本部長（長沢敏彦） |
| | 北海道拓殖バス（株） | 業務部長（小森明仁） |
| 自然保護 団体 | 大雪と石狩の自然を守る会 | 代表 |
| | 十勝自然保護協会 | 事務局長 |
| 研究者 | 北海道大学大学院環境科学研究院 渡邊悌二教授 | 同左 |
| | 北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也准教授 | 同左 |
| | 北海道大学院 国際広報メディア・観光学院 大学観光学高等研究センター 木村宏教授 | 同左 |

大雪山国立公園管理運営計画検討作業部会の設置及び参加意向について

新たな大雪山国立公園連絡協議会規約（案）第 11 条に基づく標記の作業部会を、次回総会の承認を経て設置したいと考えています。

次の概要を御確認いただき、下段の登録意向調査様式に記入の上、FAX (01658-2-2574) 又はメールで御返信をお願いします。

1. 作業部会の目的

○大雪山国立公園ビジョンを実現するため、その実施計画にあたる大雪山国立公園管理運営計画の作成について検討するもの。

（※策定の主体は、環境省北海道地方環境事務所長ですが、大雪山国立公園連絡協議会の意見を聞いて作成するものです。）

2. 内容

○大雪山国立公園管理運営計画は次の内容で構成する予定であり、その具体的な内容について、事務局が作成する案について、御意見をいただきます。

- ・管理運営計画の作成経緯、対象区域（大雪山国立公園全域）の概況
- ・ビジョン（大雪山国立公園ビジョンを要約して記載予定）
- ・管理運営方針、風致景観及び自然環境の保全に関する事項、適正な公園利用の推進に関する事項、国立公園関係者の連携体制等に関する事項（大雪山国立公園のアクションプランに該当する事項）
- ・公園事業及び行為許可等の取扱いに関する事項 など

3. 検討体制

○会員以外の出席者：未定（毎回の議題の内容に応じ、個別に検討）

4. 設置期間、作業部会の回数

- 大雪山国立公園管理運営計画の策定まで
- 令和 2 年度は 2 回程度を予定。

5. 参考事項

○現行の「大雪山国立公園管理計画」（平成 19 年 6 月）

<http://www.env.go.jp/park/daisetsu/intro/files/plan.pdf>

（※平成 26 年 7 月の自然環境局長通知により、協働型管理運営体制が構築され、ビジョンが策定された国立公園から順次、「国立公園管理計画」を改め、「国立公園管理運営計画」を作成していくこととしています。）

大雪山国立公園管理運営計画検討作業部会登録用紙

機関・団体名：

大雪山国立公園管理運営計画検討作業部会に、

参加します。

参加しません。

（↑該当するものに○をつけてください。）

大雪山国立公園協力金等検討作業部会の設置及び参加意向について

新たな大雪山国立公園連絡協議会規約（案）第 11 条に基づく標記の作業部会を、次回総会の承認を経て設置したいと考えています。

次の概要を御確認いただき、下段の登録意向調査様式に記入の上、FAX (01658-2-2574) 又はメールで御返信をお願いします。

1. 作業部会の目的

- 大雪山国立公園ビジョンでは、「大雪山国立公園の維持管理のために参加・協力したい人がお金や労力を提供するなど、多様な課題に対応するための新たな発想が必要です。」とされています。
- これを受けて、大雪山国立公園の特性にあったふさわしい協力金をはじめとする利用者が国立公園の管理運営に関する仕組みを、意見交換を通じて見出すものです。

2. 内容（想定）

- 令和元年度に実施した大雪山国立公園の登山者を対象とした協力金に関するアンケート調査の報告と検討
- 他の国立公園等における協力金等の取組事例の検討、協力金の収受に活用できる情報通信技術の検討
- 大雪山国立公園における協力金等の取組の進め方の検討。

3. 検討体制

- 会員以外の出席者（予定）：登山道維持管理部会構成員のうちの希望者

4. 設置期間、作業部会の回数

- 大雪山国立公園における協力金等の取組の進め方が明らかにされるまで（1～2年程度）
- 令和 2 年度は 2 回程度を予定。

| 大雪山国立公園協力金等検討作業部会登録用紙 | | |
|-------------------------|--|---------|
| 機関・団体名： | | |
| 大雪山国立公園協力金等検討作業部会 に、 | | 参加します。 |
| | | 参加しません。 |

(↑該当するものに○をつけてください。)